

帝国書院 令和7年度以降用「社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き」年間指導計画案(サンプル)

※内容は一部変更する可能性があります。

※総時限数を130で構成した(予備7時限分、「身近な地域調査」8時限分、「タイムトラベル」11時限分、「学習を振り返ろう」6時限分を含む。その他の特設ページはここに含めていない)。
※身近な地域の調査(8時限分)は、地域の題材に応じて適切な時期に行ってください。

学期	前後期	時限	教科書ページ	項目 (◎学習課題)	目標	評価規準の具体例 ①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③=主体的に学習に取り組む態度
第1部 歴史のとらえ方と調べ方						
<p>第1章 歴史のとらえ方と調べ方 第1節 歴史の流れと時代区分</p>						
1年1学期	1年前期	1	2	歴史をたどろう ◎この絵は何だろう？	<p>(第1節 第1節のねらい)</p> <p>①中学校の歴史学習の導入として、小学校で学習した内容をもとに課題を追究したり解決したりする活動を通して、年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解させ、資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめたりするなどの技能を身につけさせる。 ②小学校での学習を踏まえて、歴史上の人物や文化財、出来事などと時代区分の関わりなどについて考察し、適切に表現させる。</p>	<p>(第1部 第1節の評価規準の具体例)</p> <p>①年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解している。 ①資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめたりするなどの技能を身につけている。 ②時期や年代、推移、現在の私たちとのつながりなどに着目して、歴史上の人物や文化財、出来事などから適切なものを取り上げ、時代区分との関わりなどについて考察し表現している。 ③歴史の流れと時代区分について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>
1年1学期	1年前期	2 3	3 6	1 年代の表し方と時代区分 ◎年代の表し方や時代区分にはどんな種類があるのだろうか。	<p>①西暦、世紀、元号それぞれの意味と使い方を理解できる。 ②政治の中心地による時代区分や文化の特徴から名づけられた時代区分があることを理解し、時代を区分できる。</p>	<p>①さまざまな年代の表し方や時代区分について理解し、西暦、世紀、元号などを使って適切に説明している。 ①時代区分は解釈により異なることを理解し、資料(絵)に描かれた人物や出来事を事例として時代を区分する技能を身につけている。 ②歴史を大きく変えた人物や出来事などを適切に取り上げ、時代区分との関わりについて考察し、「歴史をたどろう」の道の上に、適切に時代区分を書きこんでいる。 ③西暦、世紀、元号などの年代の表し方や、さまざまな時代区分について、分かったことを整理し、今後の学習へのつながりを見いだそうとしている。</p>
<p>第2節 歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた</p>						
時期不定期	8時限分の時間が必要	8 9	1 歴史の謎を探ろう	<p>(第2節のねらい)</p> <p>①身近な地域のなかで受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって、具体的な事柄との関わりの中で地域の歴史を調べたり、収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身につけさせる。 ②博物館や郷土資料館などの利用や地域の人々の協力も考慮し、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、適切に表現させる。</p>	<p>(第2節の評価規準の具体例)</p> <p>①自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって、具体的なことから関わりの中で、地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身につけている。 ②比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちのつながりなどに着目して、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③身近な地域の歴史や受け継がれてきた伝統・文化に対する関心を持ち、身近な地域の歴史について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>	
時期不定期	8時限分の時間が必要	10 11	2 資料をよく見てヒントを探そう	<p>①教科書や地域の副読本など、身近な資料から基本的な情報を集め、調べる視点を明確にして、いくつかの仮説を立てることができる。 ②野外調査や聞き取り調査を通して新たな情報を収集し、整理できる。</p>	<p>①図書館、博物館・資料館、インターネットなどから適切に情報を集める技能を身につけている。 ②これまでに学習した人物、身近な人の話や言い伝え、地域の気になる建物・風景、遺跡・遺物、行事・風習などから、話し合いをもとに調べるテーマを適切に設定している。 ③身近な地域の歴史や受け継がれてきた伝統・文化に対する関心を高め、課題を追究しようとする。</p>	
時期不定期	8時限分の時間が必要	12 13	3 謎解きの答えをまとめよう	<p>①調べたり考えたりしたことを整理し、まとめの報告書(レポート)を作成できる。 ②調べたことを発表し、調査全体を振り返り、改善できる点や工夫できる点を探して、今後の調査活動に生かすことができる。</p>	<p>①適切なレポートのまとめ方、発表のしかたを身につけている。 ①調査を通して分かった事柄を適切な項目を立てて整理させ、根拠となる資料を年表、地図、写真・イラスト、関係図・流れ図などを用いて表現している。 ②聞く人や見る人をひきつける発表を工夫し、相手と自分の意見の違いや共通点をもとに意欲的に意見交換して、自分の考えを深めている。 ③調査活動全体を振り返り、調査の方法や留意点について自身の学びを確認、調整しようとしている。</p>	
第2部 歴史の大きな流れと時代の移り変わり						
<p>第2章 古代 古代国家の成立と東アジア ■章の問い■ 国づくりが行われていった古代の社会には、どのような特色があったのだろうか。</p>						
<p>(第2部 第1章の評価規準の具体例)</p> <p>①世界の古代文明や宗教のおこりをもとに、世界の各地で文明が築かれたことを理解している。 ①日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、ヤマト王権による統一の様子と東アジアとの関わりなどをもとに、東アジアの文明の影響を受けながら日本で国家が形成されていったことを理解している。 ②律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などをもとに、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家のしくみが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解している。 ③仏教の伝来とその影響、かな文字の成立などをもとに、国際的な要素を持った文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解している。 ④古代文明や宗教がおこった場所や環境、農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ⑤古代までの日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 ⑥古代までの日本について、よりよい社会の実現を視野に「国づくりが行われていった古代の社会には、どのような特色があったのだろうか」という章の問いを主体的に追究しようとしている。</p>						
<p>(第1節のねらい)</p> <p>①古代文明や宗教がおこった場所や環境などに着目して文明や宗教の特徴を比較して考察し、世界の各地で人々が農耕や牧畜を基盤に築いた諸文明には、生活技術の発達、文字の使用、国家のおこりと発展、都市や巨大建造物、身分の分化などの共通する特徴があることに気づかせる。 ②ギリシャ・ローマ文明の政治制度について、現代につながる面と現代の民主主義とは異なる面の両面を踏まえて理解させる。</p>						
1年1学期	1年前期	4	15	章の導入 ■章の問い■ 国づくりが行われていった古代の社会には、どのような特色があったのだろうか。	<p>①これから学習する古代(先史時代～平安時代)がどのような時代であったのか、小学校で学んだ人物・出来事を振り返りながら、周りの生徒との対話を通じて自分なりの予想を立てることができる。</p>	<p>(第1節の評価規準の具体例)</p> <p>①古代文明の特色を、巨大な遺跡と文字や暦の発達に着目して読み取るとともに、宗教が生まれてきた背景を古代文明の発達との関わりから理解し、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②古代文明や宗教がおこった場所や環境に着目し、文明や宗教の特色を比較し、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③世界の古代文明や宗教のおこりについて、章の問いと関連づけながら「世界各地の文明は、どのように成立し、発展したのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。</p>
1年1学期	1年前期	5	16 17	1 人類がたどった進化 ◎人類は進化の過程で、どのように生活を変化させてきたのだろうか。	<p>①人類がどのように進化してきたのか、環境の変化との関わりから考察し、説明できる。 ②日本列島に人類が住み始めた経緯や、旧石器時代と新石器時代の違いを理解できる。</p>	<p>①壁画や道具の変化から、人類の進化に関わる情報を読み取っている。 ①旧石器時代と新石器時代の道具や生活のしかたの違いを理解している。 ②本時の学習課題について、環境の変化への対応、火や道具、言葉などの発達に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③「世界各地の文明は、どのように成立し、発展したのだろうか」という節の問いについて、見直しをもって取り組もうとしている。</p>
1年1学期	1年前期	6	18 19	2 世界各地で生まれる文明 ◎古代文明はどのような特徴があったのだろうか。	<p>①環境の変化の影響を受け、牧畜や農耕が始まり、文明が発生したことを理解できる。 ②古代文明に共通する特色から、文明が生まれた条件を考察し、説明できる。</p>	<p>①牧畜や農耕の始まりが、古代文明の誕生につながっていった経緯を理解している。 ①メソポタミア、エジプト、インダスの文明の特色を理解している。 ②本時の学習課題について、古代文明が誕生した地域に共通する条件に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③ナイル川の氾濫が文明の発達に与えた影響について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題に対して関心を高めている。</p>

※総時限数を130で構成した(予備7時限分、「身近な地域調査」8時限分、「タイムトラベル」11時限分、「学習を振り返ろう」6時限分を含む。その他の特設ページはここに含めていない)。
 ※身近な地域の調査(8時限分)は、地域の題材に応じて適切な時期に行ってください。

学期	前後期	時限	教科書ページ	項目 (◎学習課題)	目標	評価規準の具体例 ①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度
1年1学期	1年前期	7	20 21	3 東アジアの文明の広がり ◎古代の中国は、どのように国を治めていったのだろうか。	(1)中国文明の特色を、他の古代文明との共通点から理解できる。 (2)秦と漢の政治のしくみや特色を、広大な領土を支配したこととの関わりから考察できる。	①中国文明の特色を、他の古代文明の特色との共通点から理解している。 ②本時の学習課題について、広大な領土を支配した政治のしくみに着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
1年1学期	1年前期	8	22 23	4 ギリシャとローマの政治と文明 ◎古代のギリシャ、ローマではどのような政治が行われたのだろうか。	(1)古代のギリシャとローマの政治と文明の特色を理解できる。 (2)古代のギリシャやローマで行われた民主政や共和政が、現代の民主政治と異なっていることを考察できる。	①ギリシャとローマの政治と文明の特色を理解している。 ②本時の学習課題について、ギリシャやローマの民主政治と現在の民主政治との違いに着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
1年1学期	1年前期	9	24 25	5 仏教・キリスト教・イスラム教の誕生 ◎仏教・キリスト教・イスラム教はそれぞれどのような特色があるのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 世界各地の文明は、どのように成立し、発展したのだろうか。	(1)仏教・キリスト教・イスラム教の特色を理解できる。 (2)三つの宗教が、それぞれの地域に広まった理由を考察し、説明できる。	①仏教・キリスト教・イスラム教が誕生した時期と、それぞれの教えの特色を理解している。 ①仏教・キリスト教・イスラム教が広まった地域を理解している。 ②本時の学習課題について、宗教が誕生する共通の背景に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ②「世界各地の文明は、どのように成立し、発展したのだろうか」という節の問いについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③自己の学習について振り返り、調整しようとしている。
第2節 東アジアのなかの倭(日本)				◇節の問い◇ 日本列島にはどのようにクニができ、勢力を拡大したのだろうか。	(第2節のねらい) (1)日本列島において狩猟・採集を行っていた人々の生活が農耕の広まりとともに変化していったことや、自然崇拝や農耕儀礼などに基づく信仰が後の時代にもつながっていることに気づかせる。 (2)古墳の大きさやその分布をもとに、ヤマト王権の勢力の広がりを大きく捉えさせ、東アジアとの関わりについては、大陸から移住してきた人々が日本の社会や文化に果たした役割に気づかせる。	(第2節の評価規準の具体例) ①日本列島における農耕の始まりと人々の生活の変化、ヤマト王権の勢力の拡大などをもとに、東アジアの文明の影響を受けながら日本で国家が形成されていったことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②農耕の広まりや生産技術の発展に渡来人が果たした役割に着目し、人々の生活や社会に与えた影響を事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③日本列島における国家形成について、章の問いと関連づけながら「日本列島ではどのようにクニができ、勢力を拡大したのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。
1年1学期	1年前期	10	26 27	タイムトラベル① 縄文時代を眺めてみよう 紀元前25～前20世紀ごろのある場面 タイムトラベル② 弥生時代を眺めてみよう 紀元2～3世紀ごろのある場面	(1)縄文時代と弥生時代の集落を描いた想像図を比べて、どのような点に変化し、どのような共通点があるかを読み取り、各時代の特色を考え、疑問があれば追究すべき課題(生徒自身の「単元を貫く問い」)を設定できる。	①小学校の学習を踏まえて、タイムトラベルの想像図から、縄文時代や弥生時代の建物の特色や食料調達の手段などを読み取っている。 ②縄文時代と弥生時代との共通点や違いに着目し、タイムトラベルの想像図に描かれている事象を相互に関連づけ、時代が変化している様子を多面的・多角的に考察し、問いを設定している。 ③タイムトラベルの想像図から縄文時代や弥生時代の特色を明らかにするための課題を見いだし、主体的に追究しようとしている。
1年1学期	1年前期	11	28 29	1 縄文から弥生への変化 ◎縄文・弥生時代の日本列島の人々は、それぞれどのような生活をしてきたのだろうか。	(1)縄文時代と弥生時代の人々の生活の特色を理解できる。 (2)弥生時代の人々の生活や道具が大きく変化した理由を考察し、説明できる。	①縄文時代と弥生時代の生活のしかたや道具の特色を理解している。 ①稲作の広まりが、人々の生活や社会に与えた影響を理解している。 ②本時の学習課題について、人々の生活や道具の違いに着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
1年1学期	1年前期	12	30 31	2 ムラがまとまりクニへ ◎日本列島のクニはどのようにまとまっていったのだろうか。	(1)中国の歴史書を読み解き、当時の日本国内では小国が分立して争っていたことが理解できる。 (2)中国の漢から倭の奴国に金印が授受されたことの意味を考察し、説明できる。	①中国の歴史書から、当時の日本の様子を読み取り、邪馬台国の政治の特色について理解している。 ②本時の学習課題について、中国との結びつきに着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
1年1学期	1年前期	13	32 33	3 鉄から見えるヤマト王権 ◎ヤマト王権はどのようにして各地の豪族を従えていったのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 日本列島ではどのようにクニができ、勢力を拡大したのだろうか。	(1)3世紀～6世紀ごろの倭国の政治状況と外交関係の特色を理解できる。 (2)ヤマト政権が勢力を拡大していった経緯を考察し、説明できる。	①ヤマト王権と豪族の関係を、古墳の分布や鉄の広まりなどから読み取らせる。 ②本時の学習課題について、中国や朝鮮半島との結びつきや国内の遺跡に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③節の問いについて振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。
第3節 中国にならった国家づくり				◇節の問い◇ なぜ、日本の古代国家は、中国にならった国づくりを行ったのだろうか・どのような国づくりを行ったのだろうか。	(第3節のねらい) (1)聖徳太子の政治、大化の改新から律令国家の確立に至るまでの過程を大きく捉えさせ、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家のしくみが整えられたことを理解させる。 (2)大陸からもたらされた仏教が、日本の文化のさまざまな面に影響を及ぼしたことに気づかせ、国際的な要素をもった文化が栄えたことを理解させる。	(第3節の評価規準の具体例) ①律令国家の確立に至るまでの過程をもとに、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家のしくみが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ①仏教の伝来とその影響などをもとに、国際的な要素をもった文化が栄えたことを理解している。 ②東アジアとの接触や交流に伴う日本の政治や文化の変化に着目して、東アジアの動きが政治や文化に与えた影響を事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③律令国家の形成や古代の文化と東アジアとのかわりについて、章の問いと関連づけながら「なぜ、日本の古代国家は、中国にならって国づくりを行ったのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。
1年1学期	1年前期	14	36 37	タイムトラベル③ 奈良時代を眺めてみよう 8世紀ごろのある場面	(1)縄文時代や弥生時代の集落と、奈良時代の国分寺建設の様子を描いた想像図を比べて、どのような点に変化し、どのような共通点があるのかを読み取り、想像図への疑問を追究すべき課題(生徒自身の「単元を貫く問い」)として設定できる。	①小学校の学習を踏まえて、タイムトラベルの想像図から、奈良時代の建築の様子や人々の役割などを読み取っている。 ②弥生時代と奈良時代との違いに着目し、タイムトラベルの想像図に描かれている事象を相互に関連づけるなどして、奈良時代の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③タイムトラベルの想像図から奈良時代の特色を明らかにするための課題を見いだし、主体的に追究しようとしている。
1年1学期	1年前期	15	39 37	1 ヤマト王権と仏教伝来 ◎蘇我氏や聖徳太子は、どのような国をつくらうとしたのだろうか。	(1)蘇我氏や聖徳太子の改革の特色とそのねらいを理解し、仏教を重視した理由を考察できる。 (2)蘇我氏や聖徳太子が改革を行った理由を中国との関係から考察し、説明できる。	①蘇我氏や聖徳太子の改革の特色とそのねらいを理解している。 ②本時の学習課題について、中国や朝鮮半島との結びつきや仏教と政治の結びつきに着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③法隆寺に見られる高度な技術について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題に対して関心を高めている。
1年1学期	1年前期	16	40 41	2 揺れ動くアジアと倭国 ◎倭国(日本)はどのような改革を進めたのだろうか。	(1)大宝律令の制定により、中央集権国家のしくみがつくられたことを理解できる。 (2)白村江の戦いの敗北後、天皇を中心とする国づくりが行われた理由を考察し、説明できる。	①大宝律令や都が唐を手本にしたものであることを理解している。 ②本時の学習課題について、中国や朝鮮半島の情勢に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
1年1学期	1年前期	17	42 43	3 律令国家での暮らし ◎奈良時代の土地と税の制度にはどのような特色があったのだろうか。	(1)班田収授法のしくみを理解し、律令体制の下で農民は重い負担を強いられていたことを理解できる。 (2)墾田永年私財法が出された理由と、社会に与えた影響を考察し、説明できる。	①都が平城京に移された理由を理解している。 ①班田収授法のしくみを理解し、農民の負担が大きかったことを理解している。 ②本時の学習課題について、墾田永年私財法が制定された理由と社会に与えた影響に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。

※総時限数を130で構成した(予備7時限分、「身近な地域調査」8時限分、「タイムトラベル」11時限分、「学習を振り返ろう」6時限分を含む。その他の特設ページはここに含めていない)。
 ※身近な地域の調査(8時限分)は、地域の題材に応じて適切な時期に行ってください。

学期	前後期	時限	教科書ページ	項目 (◎学習課題)	目標	評価規準の具体例 ①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③=主体的に学習に取り組む態度
1年1学期	1年前期	18 19	44 49	4 大陸の影響を受けた天平文化 ◎奈良時代にはどのような特色をもった文化が展開したのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ なぜ、日本の古代国家は、中国にならった国づくりを行ったのだろうか。	①奈良時代には、大陸の影響を受けた国際的な文化が栄えたことを理解できる。 ②大仏造立など、仏教に関わる大規模な事業が行われた理由を考察し、説明できる。	①遣唐使を通して、唐の政治のしくみや進んだ文化が伝えられ、国際色豊かな天平文化が栄えたことを理解している。 ②本時の学習課題について、大陸とのかかわりと仏教の展開に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③古代の疫病の流行と人々の対応や自然災害と神話との関係について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題に対して関心を高めている。 ④節の問いについて振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。
1年1学期	1年前期		50 51	世界とのつながりを考えよう イラスト編① 唐の都 長安	①奈良時代の遣唐使の派遣、平城京の建設、天平文化などと関連づけながら、当時の日本と中国とのつながりについて多面的・多角的に考察し、近代までの各時代の特色を、アジアを中心とした世界との関わりの中で理解することの大切さに気づく。	①これまでの学習を踏まえ、長安の想像図から、遣唐使の派遣、平城京の建設、天平文化などと関連するものを読み取っている。 ②奈良時代の日本との共通点や違いに着目し、これまでの学習内容と関連づけながら、当時の日本と中国との結びつきや、日本に影響を与えたものについて多面的・多角的に考察し、表現している。 ③長安の想像図からアジアを中心とした世界と日本との関わりについて関心を高め、これからの学習に生かそうとしている。
				第4節 展開する天皇・貴族の政治 ◇節の問い◇ 中国の影響を受けた日本の政治と文化は、どのように変化していったのだろうか。	(第4節のねらい) ①摂関政治をもとに平安京における貴族の政治の特色を理解させる。 ②東アジアの情勢の変化によって、日本でも政治と文化において独自の動きが見られるようになったことに気づかせる。 ③日本独自のかな文字が発明され、それを使った文学作品が書かれたことなどに気づかせ、文化の国風化が進んだことを理解させる。	(第4節の評価規準の具体例) ①摂関政治をもとに、平安時代は、藤原氏の皇室との姻戚関係や広大な荘園の所有を背景に政治の実権が天皇から貴族に移行していったことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②平安京への遷都や密教の興隆、国風文化の形成に着目して、東アジアの動きが政治や文化に与えた影響を、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③律令国家の形成や古代の文化と東アジアとの関わりについて、章の問いと関連づけながら「平安時代に行われた政治は、どのような特色があったのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。
1年2学期	1年前期	20	52 53	タイムトラベル④ 平安時代を眺めてみよう 11～12世紀ごろのある場面	①平安時代(平安京)における人々や貴族の生活の様子を描いた想像図を見て、奈良時代と比べてどのような点に変化し、どのような共通点があるのかを読み取り、疑問があれば追究すべき課題(生徒自身の「単元を貫く問い」)を設定できる。	①小学校の学習を踏まえて、タイムトラベルの想像図から、平安時代の街の様子や貴族の生活の様子などを読み取っている。 ②奈良時代と平安時代の違いに着目し、タイムトラベルの想像図に描かれている事象を相互に関連づけるなどして、平安時代の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③タイムトラベルの想像図から平安時代の特色を明らかにするための課題を見だし、主体的に追究しようとしている。
1年2学期	1年前期	21	54 55	1 権力を握った貴族たち ◎平安時代に行われていた政治は、どのような特色があったのだろうか。	①桓武天皇の政治の特色を理解し、平安京に都を移した理由を考察することができる。 ②摂関政治がどのように展開したかを理解し、藤原氏が権力を独占できた理由を考察することができる。	①桓武天皇が平安京に都を移した理由を理解している。 ②摂関政治のしくみを理解するとともに、地方の治安が乱れていった背景について理解している。 ③本時の学習課題について、藤原氏が政治の実権を握り続けることができた理由に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
1年2学期	1年前期	22	56 59	2 唐風から日本風へ変わる文化 ◎平安時代にはどのような特色をもった文化が展開したのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 中国の影響を受けた日本の政治と文化は、どのように変化していったのだろうか。	①遣唐使の廃止により、日本の貴族の生活や好みに合わせた独自の文化が形成されたことを理解できる。 ②平安仏教の中心が密教から浄土信仰に移っていった理由を、社会の変化から考察することができる。	①平安時代の文化の特色を、国際関係や政治の動きを通して理解している。 ②本時の学習課題について、代表的な文学作品や浄土信仰に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③祇園祭の始まりについて、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題に対して関心を高めている。 ④節の問いについて振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。
1年2学期	1年前期	23	60 62	章の学習を振り返ろう 古代国家の成立と東アジア ■章の問い■ 国づくりが行われていった古代の社会には、どのような特色があったのだろうか。	(本時の主な学習活動) ①古代の日本で国が成立するために重要なことは何かを考え、その理由とともに発表して意見交換を行う。 ②古代とはどのような時代か、自分の言葉で表現したり、意見交換を行ったりする。	(評価規準の具体例) ①「国づくりが行われていった古代の社会には、どのような特色があったのだろうか」という章の問いについて、第2章の学習で獲得した知識を活用して、自分の考えをまとめている。 ②「国づくりが行われていった古代の社会には、どのような特色があったのだろうか」という章の問いについて、人々の役割の移り変わりや「国づくり」と宗教の関係性に着目するなどして、多面的・多角的に考察し、古代の特色を適切に表現するとともに、現在とのつながりについて考察している。 ③第2章における自身の学習の経緯について振り返り、学習の方法や留意点について自身の学びを確認、調整しようとしている。
				第3章 中世 武家政権の成長と東アジア ■章の問い■ 武士による政治が行われたことによって、社会はどのように変化したのだろうか。	①次のような知識を身につけることができる。 (ア) 武家政治の成立とユーラシアの交流、(イ) 武家政治の展開と東アジアの動き、(ウ) 民衆の成長と新たな文化の形成 ②次のような思考力、判断力、表現力などを身につけることができる。 (ア) 武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、(1)の(ア)から(ウ)までについて中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現できる。 (イ) 中世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現できる。	(第2部 第2章の評価規準の具体例) ①鎌倉幕府の成立、蒙古襲来(元寇)などをもとに、武士が台頭して主従の結びつきや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったこと、蒙古襲来(元寇)がユーラシアの変化のなかで起こったことを理解している。 ②南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などをもとに、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解している。 ③農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的なしくみの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などをもとに、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。 ④武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ⑤中世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 ⑥中世の日本について、よりよい社会の実現を視野に「武士による政治が行われたことによって、社会はどのように変化したのだろうか」という章の問いを主体的に追究しようとしている。
				第1節 武士の世の始まり ◇節の問い◇ なぜ、武士が政治の実権を握るようになったのだろうか。	(第1節のねらい) ①武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が広まったことを理解させる。 ②武家政治の特徴を考察し、天皇や貴族の政治との違いという観点から、古代から中世への転換の様子に気づかせる。	(第1節の評価規準の具体例) ①鎌倉幕府の成立により、主従の結びつきや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広がるとともに、武士の気風にあつた力強い文化が発展したことを理解し、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②武士の政治への進出と政治の展開、貴族の政治との違いに着目して、武家政権の特徴を事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③武家政権の成立とユーラシアの交流について、章の問いと関連づけながら「なぜ、武士が政治の実権を握るようになったのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。
1年2学期	1年後期	24	63	章の導入 ■章の問い■ 武士による政治が行われたことによって、社会はどのように変化したのだろうか。	①これから学習する中世(鎌倉時代～室町時代・戦国時代)がどのような時代であったのか、小学校で学んだ人物・出来事を振り返りながら、周りの生徒との対話を通じて自分なりの予想を立てることができる。	①小学校での学習などをもとに、中世に該当する時代を把握し、小学校で学習したこの時期の歴史上の人物や出来事を想起することができる。 ②前の章での学習などをもとに、中世では前の時代からどのように社会が変化するか、予想し、表現している。 ③「武士による政治が行われたことによって、社会はどのように変化したのだろうか」という章の問いに対する学習の見通しを立て、学習を通して中世の特色を明らかにしようとしている。
1年2学期	1年後期	25	64 65	タイムトラベル⑤ 鎌倉時代を眺めてみよう 13～14世紀ごろのある場面	①鎌倉時代の農村の様子を描いた想像図を見て、平安時代と比べて、どのような点に変化し、どのような共通点があったのかを読み取り、疑問があれば追究すべき課題(生徒自身の「単元を貫く問い」)を設定できる。	①タイムトラベルに描かれた鎌倉時代の農村の様子を事例に小学校での学習をふまえ、武士の世に該当する時代を把握し、この時期の歴史上の人物や出来事を想起している。 ②前の章での学習などを基に、平安時代からどのように社会が変化したかを予想し、武士の世の特色にかかわる「問い」を考察し、表現している。 ③「武士による政治が行われたことによって、社会はどのように変化したのだろうか」という章の問いに対する学習の見通しを立て、武士の世の特色を明らかにしようとしている。

※総時限数を130で構成した(予備7時限分、「身近な地域調査」8時限分、「タイムトラベル」11時限分、「学習を振り返ろう」6時限分を含む。その他の特設ページはここに含めていない)。
 ※身近な地域の調査(8時限分)は、地域の題材に応じて適切な時期に行ってください。

学期	前後期	時限	教科書ページ	項目 (◎学習課題)	目標	評価規準の具体例 ①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度
1年2学期	1年後期	26	66 67	1 各地で生まれる武士団 ◎武士は、どのようにして登場し、力をつけていったのだろうか。	①武士が台頭してきた理由を、土地の所有や権利などをめぐる社会の変化から考察できる。 ②地方の反乱を鎮めることを通し、武士団が成長し自立していったことを理解できる。	①天皇の子孫である源氏や平氏が、各地の武士団を広くまとめ、武士の統率者(棟梁)となっていたことを理解している。 ②本時の学習課題について、荘園、公領をめぐる争いや都と地方の武士が果たした役割に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
1年2学期	1年後期	27	68 69	2 朝廷と結びつく武士 ◎平氏は、どのようにして政治の実権を握ったのだろうか。	①政治の実権が摂関政治から院政に移行していったことを、武士の台頭との関わりから理解できる。 ②平清盛が権力を握ることができた理由を考察し、表現できる。 ③平氏の政治の課題について、武士政権の実現を視野に、主体的に追究することができる。	①院政を経て源氏と平氏が大きな力をもつようになった背景や、平清盛が政治の実権を握るきっかけとなった出来事、平氏政権の経済的な基盤などについて理解している。 ②本時の学習課題について、藤原氏と平氏の共通点と相違点に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
1年2学期	1年後期	28	70 71	3 鎌倉を中心とした武家政権 ◎鎌倉幕府は、どのようにして武士たちを支配したのだろうか。	①鎌倉幕府は、御恩と奉公による主人と家来の主従関係を基盤としていたことを理解できる。 ②鎌倉幕府の全国支配と執権政治が確立された理由を、承久の乱との関わりから考察できる。	①主従関係のしくみを本文から読み取り、効果的にまとめ、理解している。 ①資料をもとにして、承久の乱の勝利をきっかけに、鎌倉幕府と東国の武士による支配が西国にも及ぶようになったことを理解している。 ②本時の学習課題について、御恩と奉公の関係や執権政治の展開に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
1年2学期	1年後期	29	72 75	4 武士や僧侶たちが広めた鎌倉文化 ◎鎌倉時代には、どのような特色をもった文化が展開したのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ なぜ、武士が政治の実権を握るようになったのだろうか。	①鎌倉時代には、武士の気風を反映した力強い文化が生まれたことを理解できる。 ②鎌倉時代に新しい仏教が生まれてきた理由を、社会との関わりから考察することができる。	①新たな政治の支配者となった武士の気風に合った鎌倉時代の文化の特色を、具体的な文化財とその特徴をもとにして理解している。 ①鎌倉時代の新しい仏教について、開いた人とその教え、どのような人々に受け入れられたかを読み取り、効果的にまとめ、理解している。 ②本時の学習課題について、武士の台頭や当時の社会情勢に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③自然災害に見舞われた中世の人々について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題に対する関心を高めている。 ③節の問いについて振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。
第2節 武家政権の内と外 ◇節の問い◇ ユーラシア大陸からの影響によって、日本にどのような変化が起こったのだろうか。				(第2節のねらい) ①蒙古襲来(元寇)がユーラシアの変化の中で起こったことなど、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解させる。 ②南北朝の争乱の中で室町幕府が成立し、武家社会が次第に大きな力を持つようになったこと、日明貿易で銅銭が大量にもたらされ、貨幣経済の発達を促したこと、琉球が日本、明や朝鮮、東南アジア諸国との中継貿易を行っていたことに気づかせる。	(第2節の評価規準の具体例) ①蒙古襲来が国内に及ぼした影響、南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などの知識をもとに、武家政治が東アジア世界と密接な関わりをもちながら展開していったことを理解し、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②東アジアにおける交流に着目して、モンゴル帝国の拡大や衰退が国内の政治や社会に与えた影響を、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③武家政治の展開と東アジアの動きについて、章の問いと関連づけながら「ユーラシア大陸からの影響によって、日本にどのような変化が起こったのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。	
1年2学期	1年後期	30	78 81	1 モンゴル帝国と「蒙古襲来」 ◎モンゴル帝国の拡大は、鎌倉幕府にどのような影響を与えたのだろうか。	①モンゴル帝国の成立が世界や東アジアに与えた影響を、領土の拡大と文化の交流の視点から理解できる。 ②蒙古襲来が幕府と御家人との関係に与えた影響を、御恩と奉公の主従関係から考察できる。	①蒙古襲来は、モンゴル帝国の領土拡大の一環として行われたことを理解している。 ①2度の蒙古襲来が幕府と御家人に与えた影響を、資料から読み取っている。 ②本時の学習課題について、御家人たちの不満が高まった理由に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③モンゴル帝国によるグローバルな東西交流について、よりよい社会の実現を視野に、そこでみられる課題に対して関心を高めている。
1年2学期	1年後期	31	84 85	2 南北朝の内乱と新たな幕府 ◎武家政権は、鎌倉幕府の崩壊の後、どのように変化したのだろうか。	①鎌倉幕府の滅亡から南北朝の動乱、室町幕府の成立までの経緯を理解できる。 ②鎌倉時代の守護と室町時代の守護大名の違いを、年貢の徴収権と領国支配の違いから考察できる。	①建武の新政が失敗に終わった理由と、その後の南北朝の対立から室町幕府の成立までの経緯を理解している。 ①鎌倉幕府のしくみとの違いから室町幕府のしくみを読み取り、管領に有力な守護大名が任命されるようになったことから、武家政治がどのように変化したのかを理解している。 ②本時の学習課題について、室町幕府と守護大名との関係に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
1年2学期	1年後期	32	86 87	3 東アジアの交易と倭寇 ◎室町幕府は、明や朝鮮とどのように貿易を進めたのだろうか。	①室町幕府は明と朝貢形式の交易を行い、日明貿易により大きな利益を得ていたことを理解できる。 ②日明貿易の特色を理解し、貿易に勘合が用いられた理由を考察できる。	①室町幕府と明・朝鮮の関係について、倭寇の活動やそれぞれとの交易の特色などを通して理解している。 ②本時の学習課題について、朝貢や倭寇に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
1年2学期	1年後期	33	88 89	4 琉球とアイヌ民族ががつながる交易 ◎琉球王国やアイヌ民族は、周辺諸国とどのような関係を築いたのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ ユーラシア大陸からの影響によって、日本にどのような変化が起こったのだろうか。	①琉球王国は、地理的な特質を生かした中継貿易を行っていたことを理解できる。 ②アイヌの人々は、独自の文化を育み、北方の地域や日本と交易していたことを理解できる。	①琉球王国とアイヌの人々の交易の特色を理解するとともに、琉球王国は日本と同じように明への朝貢貿易を行っていたことを理解している。 ②本時の学習課題について、琉球やアイヌの人々と本州の人々との関係に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③琉球文化やアイヌ文化について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題に対して関心を高めている。 ③節の問いについて振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。
第3節 人々の結びつきが強まる社会 ◇節の問い◇ なぜ、人々は結びつきを強めていったのだろうか。				(第3節のねらい) ①農業など諸産業の発達や畿内を中心とした都市や農村における自治的なしくみの成立が、当時の社会の大きな変化であることや、それに伴って商品流通が活発化したことに気づかせる。 ②武家政治の展開や民衆の成長を背景とした多様な文化が生まれたことを理解させ、この時代の文化の中に現代に結びつくものが見られることに気づかせる。 ③各地に戦乱が広まる中で戦国大名が登場し、自らの領国を支配して分国法を定めたり、城下町を形成して産業の振興に努めたりしたことや、下剋上の風潮など、社会全体が大きく変化していったことに気づかせる。	(第3節の評価規準の具体例) ①農業など諸産業の発達、都市や農村における自治的な仕組みの成立、多様な文化の形成、応仁の乱後の社会の変動などをもとに、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解し、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②室町時代の農業や商工業の発達に着目して、民衆の成長が社会に与えた影響を、事象相互を関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③民衆の成長と新たな文化の形成について、章の問いと関連づけながら「なぜ、人々は結びつきを強めていったのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。	
1年2学期	1年後期	34	90 91	タイムトラベル⑥ 室町時代を眺めてみよう 15世紀ごろのある場面	①室町時代の港町の様子を描いた想像図を見て、鎌倉時代と比べて、どのような点に変化し、どのような共通点があるのかを読み取り、疑問があれば追究すべき課題(生徒自身の「単元を貫く問い」)を設定できる。	①小学校での学習などを基に、タイムトラベルに描かれた室町時代の港町の様子を把握し、街の様子や人々の行動などを読み取っている。 ②タイムトラベルの想像図を基に、慣習や衣食住、文化の観点から前の時代とはどのように社会が変化したかを予想し、室町時代の特色にかかわる「問い」を考察し、表現している。 ③タイムトラベルの想像図から室町時代の特色を明らかにするための課題を見だし、主体的に追究しようとしている。
1年2学期	1年後期	35	92 93	1 技術の発達とさまざまな職業 ◎鎌倉時代から室町時代にかけて、産業と交通はどのように発展していったのだろうか。	①鎌倉時代からの農業生産力の向上に伴い、室町時代には手工業が発達してさまざまな職業が登場し、流通の発達が促されたことを理解できる。 ②経済活動が盛んになり貨幣経済が成長した理由を考察し、表現できる。	①室町時代には、どのような手工業、運送業、金融業などが発達したのか、絵画資料などから適切に読み取り、理解している。 ②本時の学習課題について、農業生産力の高まりが産業や交通に与えた影響に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③中世の老人と子ども、女性について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題に対して関心を高めている。

※総時限数を130で構成した(予備7時限分、「身近な地域調査」8時限分、「タイムトラベル」11時限分、「学習を振り返ろう」6時限分を含む。その他の特設ページはここに含めていない)。
 ※身近な地域の調査(8時限分)は、地域の題材に応じて適切な時期に行ってください。

学期	前後期	時限	教科書ページ	項目 (◎学習課題)	目標	評価規準の具体例 ①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③=主体的に学習に取り組む態度
1年2学期	1年後期	36	94 95	2 団結して自立する民衆 ◎人々は、自分たちの目的を成し遂げるために、どのような行動を起こしたのだろうか。	(1)自力救済の社会の中で、共同体が強固になり、民衆たちが独自の行動を起こすようになったことを理解できる。 (2)村や都市の共同体が、政治権力の干渉を排除するほどに結びつきを強めた理由を考察することができる。	①室町時代には、各地でさまざまな一揆が起こるとともに、都市が発達し自治的な動きが現れてきたことを理解している。 ②資料から、民衆の一揆の目的や自治的な組織をつくった理由などを読み取っている。 ③本時の学習課題について、人々のヨコの結びつきや自治の仕組みに着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
1年2学期	1年後期	37	96 97	3 全国に広がる下剋上 ◎応仁の乱をきっかけとして、社会はどのように変わっていったのだろうか。	(1)応仁の乱の背景を考察し、戦国大名によって領国支配が確立されていったことを理解できる。 (2)守護大名と戦国大名の違いについて、幕府や領国との関係に着目して考察し、表現できる。	①どのような人が戦国大名となったのか、どのような政策を実施したのか、戦国時代になって天皇や公家・大寺社の力が急速に弱まっていった理由は何かということを理解している。 ②本時の学習課題について、戦国大名の動きに着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③自然を生かした信玄堤について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題に対して関心を高めている。
1年2学期	1年後期	38	98 101	4 庶民に広がる室町文化 ◎室町時代にはどのような特色をもった文化が展開したのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ なぜ、人々は結びつきを強めていったのだろうか。	(1)室町時代には、武家と公家の文化が融合し、日本的な美意識や生活様式をもった文化が形成され、現代につながっていることを理解できる。 (2)室町時代には、庶民や地方にも京都の文化が広がっていった理由を考察することができる。	①室町時代の文化の特色を、北山文化と東山文化の違いと共通点から理解し、室町文化の特徴が現代の文化や生活様式などに受け継がれていることを理解している。 ②本時の学習課題について、室町文化とそれまでの文化の違いに着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③節の問いについて振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。
1年2学期	1年後期	39	102 104	章の学習を振り返ろう 武家政権の成長と東アジア ■章の問い■ 武士による政治が行われたことによって、社会はどのように変化したのだろうか。	(本時の主な学習活動) (1)中世までに登場した身分や職業を武士と庶民のまとまりに分けて、人々がそれぞれに結びつきを強めていった目的は何かを考え、説明して話し合う。 (2)中世とはどのような時代か、自分の言葉で表現したり、意見交換を行ったりする。	(評価規準の具体例) ①「武士による政治が行われたことによって、社会はどのように変化したのだろうか」という章の問いについて、第3章の学習で獲得した知識を活用して、自分の考えをまとめている。 ②「武士による政治が行われたことによって、社会はどのように変化したのだろうか」という章の問いについて、支配者層の移り変わりや人々のもち物の変化と武士との関係に着目するなどして、多面的・多角的に考察し、中世の特色を適切に表現するとともに、現在とのつながりについて考察している。 ③第3章における自身の学習の経緯について振り返り、学習の方法や留意点について自身の学びを確認、調整しようとしている。
				第4章 近世 武家政権の展開と世界の動き ■章の問い■ 全国を統一する政権の誕生によって、社会はどのように変化したのだろうか。	(1)次のような知識を身につけることができる。 (ア) 世界の動きと統一事業、(イ) 江戸幕府の成立と対外関係、(ウ) 産業の発達と町人文化、(エ) 幕府の政治の展開 (2)次のような思考力、判断力、表現力などを身につけることができる。 (ア) 交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、(1)の(ア)から(エ)までについて近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現できる。 (イ) 近世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現できる。	(第2部 第3章の評価規準の具体例) ①ヨーロッパ人來航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などをもとに、近世社会の基礎がつけられたことを理解している。 ②江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、領国などの幕府の対外政策と対外関係などをもとに、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。 ③産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりをとらえ、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解している。 ④社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどをもとに、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解している。 ⑤交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ⑥近世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 ⑦近世の日本について、よりよい社会の実現を視野に「全国を統一する政権の誕生によって、社会はどのように変化したのだろうか」という章の問いを主体的に追究しようとしている。
				第1節 大航海によって結びつく世界 ◇節の問い◇ ヨーロッパの国々による世界進出は、各地の生活や文化にどのような影響を与えたのだろうか。	(第1節のねらい) (1)ポルトガルやスペインによる新航路の開拓や宗教改革によるキリスト教世界の動きに伴って、鉄砲やキリスト教が伝来して南蛮貿易が盛んになり、それらが日本の社会に影響を及ぼし、近世社会の基礎がつけられたことを理解させる。 (2)新航路の開拓の背景となるアジアの交易の状況やイスラム商人などの役割と世界の結びつきに気づかせる。	(第1節の評価規準の具体例) ①十字軍の遠征を通じたイスラム勢力との交流や、それに伴うローマ教皇の権威の衰えが近代ヨーロッパ世界の形成を促したこと、新航路の開拓とヨーロッパの人々の進出により世界の一体化が始まったことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②ヨーロッパの人々による交易の広がりとその影響に着目して、ヨーロッパ諸国が世界各地に進出する中で世界の交易の空間的な広がりが生み出され、それを背景として日本とヨーロッパ諸国の接触が起こったことや、日本の政治や文化に与えた影響などを、事象相互を関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ヨーロッパ人來航の影響とその背景について、章の問いと関連づけながら「ヨーロッパの国々による世界進出は、各地の生活や文化にどのような影響を与えたのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。
1年3学期	1年後期	40	105	章の導入 ■章の問い■ 全国を統一する政権の誕生によって、社会はどのように変化したのだろうか。	(1)これから学習する近世(室町時代・戦国時代～江戸時代)がどのような時代であったのか、小学校で学んだ人物・出来事を振り返りながら、周りの生徒との対話を通じて自分なりの予想を立てることができる。	①小学校での学習などをもとに、近世に該当する時代を把握し、小学校で学習したこの時期の歴史上の人物や出来事を想起することができる。 ②前の章での学習などをもとに、近世では前の時代からどのように社会が変化するか、予想し、表現している。 ③「全国を統一する政権の誕生によって、社会はどのように変化したのだろうか」という章の問いに対する学習の見通しを立て、学習を通して近世の特色を明らかにしようとしている。
1年3学期	1年後期	41	106 107	1 ヨーロッパの変革 ◎ヨーロッパの文化や社会は、イスラム商人との交流によってどのように変化していったのだろうか。	(1)イスラム文化の影響を受け、近代ヨーロッパ世界が形成されたことを理解できる。 (2)ヨーロッパで、ルネサンスと宗教改革が起こった背景とその影響を考察できる。	①十字軍の遠征を通じたヨーロッパとイスラム圏の接触により、イスラムの文化や技術などが伝わり、ヨーロッパに変革が起きたことを理解している。 ②本時の学習課題について、十字軍の遠征が文化や宗教に及ぼした影響に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
1年3学期	1年後期	42	108 111	2 大航海時代の幕開け ◎ヨーロッパの人々の進出によって、世界はどのように変化したのだろうか。	(1)ヨーロッパの人々が、新航路の開拓を行った目的を理解できる。 (2)新航路の開拓により、貿易が世界的に盛んになり、世界の一体化が始まったことを考察できる。	①コロンブス、バスコ＝ダ＝ガマ、マゼランが開拓した航路と、開拓の目的を理解している。 ①アメリカ大陸の古代文明の特色を理解している。 ②本時の学習課題について、新航路の開拓がアフリカやアメリカ、アジアにもたらした影響に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③アメリカ大陸に渡った病原菌について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題に対して関心を高めている。
1年3学期	1年後期	43	112 115	3 東アジアの貿易と南蛮人 ◎ヨーロッパの国々による世界進出によって、日本の生活や文化はどのような影響を受けたのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ ヨーロッパの国々は、なぜ世界に進出したのだろうか。	(1)南蛮貿易の特色を理解し、鉄砲の伝来が日本の社会に与えた影響を理解できる。 (2)日本にキリスト教が伝わった背景と、国内にキリスト教が広がった理由を考察できる。	①南蛮貿易の主な貿易品やヨーロッパ船の来航地を理解している。 ②本時の学習課題について、鉄砲やキリスト教の伝来に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。

※総時限数を130で構成した(予備7時限分、「身近な地域調査」8時限分、「タイムトラベル」11時限分、「学習を振り返ろう」6時限分を含む。その他の特設ページはここに含めていない)。
 ※身近な地域の調査(8時限分)は、地域の題材に応じて適切な時期に行ってください。

学期	前後期	時限	教科書ページ	項目 (◎学習課題)	目標	評価規準の具体例 ①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度
				第2節 戦乱から全国統一へ ◇節の問い◇ 全国統一が進むなかで、社会はどのように変化したのだろうか。	(第2節のねらい) (1)織田信長が行った仏教勢力への圧迫や関所の撤廃、豊臣秀吉が行った検地・刀狩などの政策によって、中世の大きな勢力が力を失ったことや、中世までとは異なる社会が生まれていったことなどの大きな変化に気づかせる。 (2)南蛮文化が取り入れられる一方、生活に根ざした文化が広がり、武將や豪商の気風や経済力を背景とした豪華・華麗な文化が生まれていったことに気づかせる。	(第2節の評価規準の具体例) ①信長・秀吉による統一事業とその当時の対外関係、戦国大名や豪商などの生活・文化の特色などの知識をもとに、中世社会の荘園制の崩壊と仏教勢力の衰退により、近世社会の基礎がつけられたことを理解し、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②統一政権の諸政策の目的に着目して、中世社会から近世社会への変化が生み出され、日本の政治や文化に与えた影響などを、事象相互を関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③信長・秀吉による統一事業や桃山文化について、章の問いと関連づけながら「全国統一が進むなかで、社会はどのように変化したのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。
1年3学期	1年後期	44	114 115	タイムトラベル⑦ 安土桃山時代を眺めてみよう 16世紀ごろのある場面	(1)安土桃山時代のまちづくりが行われている様子を描いた想像図を見て、鎌倉・室町時代と比べて、どのような点が変わり、どのような共通点があったのかを読み取り、疑問があれば追究すべき課題(生徒自身の「単元を貫く問い」)を設定できる。	①小学校の学習を踏まえて、タイムトラベルの想像図から、安土桃山時代の築城の様子や検地、刀狩の様子などを読み取っている。 ②室町時代と安土桃山時代の違いに着目し、タイムトラベルの想像図に描かれている事象を相互に関連づけるなどして、時代の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③タイムトラベルの想像図から安土桃山時代の特色を明らかにするための課題を見だし、主体的に追究しようとしている。
1年3学期	1年後期	45	116 117	1 信長・秀吉による全国統一 ◎戦国大名は、どのようにして全国統一を進めたのだろうか。	(1)信長・秀吉の統一事業により、中世社会の勢力が力を失い、近世社会の到来が促されたことを理解できる。 (2)信長の諸政策の特色を、海外貿易の許容とキリスト教の禁止との矛盾、文禄・慶長の役の失敗から考察できる。	①戦国時代はどのようにして終わったのか、織田信長と豊臣秀吉が全国統一を果たしていった経緯をもとに理解している。 ②本時の学習課題について、信長や秀吉の政策に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
1年3学期	1年後期	46	118 119	2 秀吉が導いた近世社会 ◎秀吉は、国内と海外に対してどのような政策を行ったのだろうか。	(1)秀吉の諸政策が中世的な土地制度を解体し、検地に基づく直接的な土地支配を確立したことを理解できる。 (2)秀吉の対外政策の特色を、海外貿易の許容とキリスト教の禁止との矛盾、文禄・慶長の役の失敗から考察できる。	①検地と刀狩によって中世までとは異なる社会がつけられたことを、兵農分離に着目して理解している。 ②文禄・慶長の役の失敗が豊臣氏の支配が弱まる原因になったことを理解している。 ③本時の学習課題について、検地や刀狩り、文禄・慶長の役に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
1年3学期	1年後期	47	120 123	3 戦国大名と豪商が担った桃山文化 ◎安土桃山時代には、どのような特色をもった文化が展開したのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 全国統一が進むなかで、社会はどのように変化したのだろうか。	(1)戦国大名や豪商の経済力を背景に、豪華な文化が生まれたことを理解できる。 (2)南蛮貿易によって西洋の文化がもたらされるとともに、庶民の間にも芸能や娯楽が広まっていったことを理解できる。	①桃山文化の特色を、戦国大名や豪商の豊かな経済力と南蛮貿易の影響に着目して理解している。 ②本時の学習課題について、中世の文化と桃山文化との差異に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③築城による森林伐採や朝鮮半島から伝わった文化について、よりよい社会の実現を視野に、ここで見られる課題に対して関心を高めている。 ④節の問いについて振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。
				第3節 武士による全国支配の完成 ◇節の問い◇ 江戸幕府はどのようにして全国を支配したのだろうか。	(第3節のねらい) (1)江戸幕府の支配の下に大きな戦乱のない時期を迎えたことなど、中世から近世への転換の様子を、中世の武家政治との違いに着目して考察させ、自分の言葉で表現させる。 (2)江戸幕府の成立と大名統制については、幕府が大名を統制するとともに、その領内の政治の責任を大名に負わせたことに気づかせる。	(第3節の評価規準の具体例) ①江戸幕府の成立と大名統制、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係をもとに、幕府と藩による支配が確立したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②統一政権の諸政策の目的に着目し、江戸幕府により全国を支配する仕組みがつけられ、安定した社会が構築されたことなどを、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③江戸幕府の成立と対外関係について、章の問いと関連づけながら「江戸幕府はどのようにして全国を支配したのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。
1年3学期	1年後期	48	124 125	1 幕藩体制の始まり ◎江戸幕府は大名や朝廷を統制するために、どのようなしくみをつくったのだろうか。	(1)江戸幕府が開かれた経緯と幕藩体制のしくみを理解し、江戸幕府が長く続いた理由を考察できる。 (2)幕府が、大名や朝廷を統制するためにどのような制度や法令を整備したか理解できる。	①大名の配置、武家諸法度の制定、参勤交代の制度のそれぞれのねらいを理解している。 ②本時の学習課題について、幕府の軍事力や経済力に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
1年3学期	1年後期	49	126 127	2 朱印船貿易から貿易統制へ ◎幕府は、盛んになっていた貿易やキリスト教の布教に、どのように対処していったのだろうか。	(1)幕府は、当初、大名や豪商などに朱印状を与えて積極的に貿易を進めていたことを理解できる。 (2)幕府の政策が、貿易の推進から統制に変化した理由を、キリスト教との関わりから考察できる。	①キリスト教と貿易への対応について、信長・秀吉・家康の違いを効果的にまとめ、貿易の統制と禁教に移行していったことを理解している。 ②本時の学習課題について、貿易とキリスト教徒の関係に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
1年3学期	1年後期	50	128 129	3 四つに絞られた貿易の窓口 ◎幕府は、貿易についてどこを窓口とし、どのように関わっていったのだろうか。	(1)幕府は、長崎、対馬、薩摩、松前の四つの窓口を通して外との貿易を行っていたことを理解できる。 (2)幕府が世界とつながる窓口を限定した理由を考察し、表現できる。	①貿易の四つの窓口が、それぞれ、オランダと清、朝鮮、琉球、蝦夷地への窓口となり貿易を行っていたことを理解している。 ②本時の学習課題について、四つの窓口が果たした役割に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③日本と朝鮮をつないだ倭館について、よりよい社会の実現を視野に、ここで見られる課題に対して関心を高めている。
1年3学期	1年後期	51	130 131	4 琉球王国とアイヌ民族への支配 ◎琉球王国とアイヌ民族は、薩摩藩や松前藩とどのような関係にあったのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 江戸幕府はどのようにして全国を支配したのだろうか。	(1)琉球王国は薩摩藩の支配を受けながら、一方で中国に朝貢し貿易を行っていたことを理解できる。 (2)アイヌの人々が松前藩と対立した理由を考察し、表現できる。	①琉球王国と薩摩藩、アイヌの人々と松前藩の交易の特色を理解している。 ②本時の学習課題について、明との関係や琉球王国、アイヌ民族との交易に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③節の問いについて振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。

※総時限数を130で構成した(予備7時限分、「身近な地域調査」8時限分、「タイムトラベル」11時限分、「学習を振り返ろう」6時限分を含む。その他の特設ページはここに含めていない)。
 ※身近な地域の調査(8時限分)は、地域の題材に応じて適切な時期に行ってください。

学期	前後期	時限	教科書ページ	項目 (◎学習課題)	目標	評価規準の具体例 ①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③=主体的に学習に取り組む態度
				第4節 天下泰平の世の中 ◇節の問い◇ なぜ江戸時代に産業や経済が発達したのだろうか。	(第4節のねらい) (1)身分制の下で、人々はそれぞれの身分の中で職分を果たしたこと、農村が幕府や藩の経済を支えていたことなどに気づかせる。 (2)農林水産業や手工業、商業などの産業や河川・海上交通、街道が発達したことについて、身近な地域の特徴を生かした事例を選んで理解させる。 (3)藩校や寺子屋などの普及に着目して、人々の教育への関心の高まりに気づかせるとともに、学問・芸術・芸能などの地域的な広まりに着目して、文化の社会的な基盤が拡大したことを理解させる。 (4)近世の文化について、大阪・京都・江戸などの都市を舞台に、経済力を高めた町人を担い手とする文化が形成されたことなどを理解させる。	(第4節の評価規準の具体例) ①身分制と農村の様子、産業や交通の発達、文化の広がりをもとに、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②産業の発達と文化の担い手の変化に着目し、都市を中心とした経済が形成されていく中で、日本の文化の空間的な広がりが生み出され、それを背景として各地方の生活文化が生まれたことや、生産技術の向上や交通の整備と町人文化の特徴などを、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③身分制と農村の様子、産業や交通の発達、元禄文化について、章の問いと関連づけながら「なぜ江戸時代に産業や経済が発達したのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。
2年1学期	前期	52	134 135	タイムトラベル◎ 江戸時代を眺めてみよう 17～18世紀ごろのある場面	(1)江戸時代のある街道沿いの農村の様子を描いた想像図を見て、安土桃山時代と比べて、どのような点が変化し、どのような共通点があったのかを読み取り、疑問があれば追究すべき課題(生徒自身の「単元を貫く問い」)を設定できる。	①小学校の学習を踏まえて、タイムトラベルの想像図から、江戸時代の街道の様子や農業の様子などを読み取っている。 ②安土桃山時代と江戸時代の違いに着目し、タイムトラベルの想像図に描かれている事象を相互に関連づけるなどして、時代の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③タイムトラベルの想像図から江戸時代の特色を明らかにするための課題を見だし、主体的に追究しようとしている。
2年1学期	前期	53	136 137	1 身分制の下での暮らし ◎江戸時代の身分制とは、どのようなしくみののだろうか。	(1)江戸時代の人口構成の特色と身分制のしくみを理解できる。 (2)幕藩体制の確立後、幕府が文治政治へ転換し、朱子学を重視した理由を考察することができる。	①武士と百姓・町人の身分を区別するしくみを理解し、年貢を納入させるためにどのようなしくみがとられていたかを理解している。 ①徳川綱吉が朱子学を重視した理由を、学問や礼節を重んじる文治政治との関係から理解している。 ②本時の学習課題について、武士、百姓・町人の役割に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③近世の社会において差別された人々について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題に対して関心を高めている。
2年1学期	前期	54	138 139	2 安定する社会と諸産業の発達 ◎江戸時代の国内産業は、どのように発達していったのだろうか。	(1)江戸時代には、新田開発や農具の発達、肥料の工夫などにより米の収穫量が増えたことを理解できる。 (2)各地で商品作物の栽培や特産物の生産が盛んになり、国内産業が発達した理由を考察することができる。	①幕府や藩、農民が米の生産量を増やすために行ったことを、適切に読み取り、理解している。 ②本時の学習課題について、特産品の生産や漁業・鉱業・林業の発達に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③利根川のつけ替え工事や森林伐採と植林について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題に対して関心を高めている。
2年1学期	前期	55	140 141	3 各地を結ぶ陸の道・海の道 ◎交通網の整備は、都市や産業の発達にどのような影響を与えたのだろうか。	(1)江戸時代には、五街道や西廻り航路・東廻り航路などの交通網が整備されたことを理解できる。 (2)交通網の整備が、都市や産業にどのような影響を与えたかを考察することができる。	①江戸時代の主な街道と航路の名称とルート、三都のそれぞれの特色を理解している。 ②本時の学習課題について、大阪の発展に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
2年1学期	前期	56	144 147	4 上方で栄えた町人の元禄文化 ◎江戸時代前半には、どのような特色をもった文化が展開したのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ なぜ江戸時代に産業や経済が発達したのだろうか。	(1)文学や装飾画などの多彩な分野で、上方を中心に町人文化が栄えたことを理解できる。 (2)上方の町人階層から新たな文化が形成された背景を、当時の上方の経済的な地位から考察することができる。	①江戸時代前半に上方を中心に広がった町人文化の特色を、それぞれ表などで適切にまとめ、理解している。 ②本時の学習課題について、上方の町人が文化の担い手になったことに着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③日本人がつくった最初の層について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題に対して関心を高めている。 ③節の問いについて振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。
				第5節 社会の変化と幕府の対策 ◇節の問い◇ なぜ幕府はさまざまな改革を行ったのだろうか。	(第5節のねらい) (1)貨幣経済の農村への広がりや自然災害などによる都市や農村の変化などを踏まえ、近世社会の基礎が動揺していったことに気づかせる。 (2)外国船の接近とそれに対応した幕府による北方の調査や打払令などを取り上げる。 (3)財政の悪化などを背景とした幕府の政治改革を取り上げ、百姓一揆などに結びつく農村の変化や、商業の発達などへの対応というねらいがあったことに気づかせる。 (4)蘭学や国学などの学問の分野に新しい時代を切り開く動きがみられたことに気づかせる。	(第5節の評価規準の具体例) ①商品作物と貨幣経済の広まりに伴う経済格差の発生と民衆の動き、幕府の改革、新しい学問・思想の動きなどをもとに、幕府の政治がしだいに行き詰まりを見せたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②社会の変化と幕府の政策の変化に着目し、貨幣経済が農村に広がるなかで経済的な格差が生み出され、それを背景として百姓一揆が起こったことや、社会や経済の変化への対応としての諸改革の展開などを、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③幕府の政治改革、新しい学問・思想の動き、化政文化について、章の問いと関連づけながら「なぜ幕府はさまざまな改革を行ったのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。
2年1学期	前期	57	146 147	1 貨幣経済の広まり ◎徳川吉宗はどのような改革を行ったのだろうか。	(1)徳川吉宗の享保の改革の特色を理解するとともに、米を中心とする財政改革は、一定の成果はあったが社会の変化に十分には対応できなかったことを理解できる。 (2)農民の間に格差が生まれた理由を、商品作物と貨幣経済の広まりに着目して考察することができる。	①徳川吉宗の享保の改革は、政治面ではしきたりにとらわれない新しい制度を導入したが、財政面では年貢米を増やそうとする従来型の改革であったことを理解している。 ②本時の学習課題について、貨幣経済の広まりによる社会の変化に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
2年1学期	前期	58	148 149	2 繰り返される要求と改革 ◎百姓の要求と財政難に対して、幕府はどのような対応を行ったのだろうか。	(1)田沼意次は貨幣経済の発達に対応した政治を目指したことを理解し、それが挫折した背景を考察できる。 (2)寛政の改革は、農業を重視した従来型の政策であったことを理解できる。	①百姓一揆や打ちこわしがどのようなことを背景として起こり、何を要求した運動だったのかを理解している。 ②本時の学習課題について、田沼意次と松平定信の政策の違いに着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
2年1学期	前期	59	150 153	3 江戸の庶民が担った化政文化 ◎江戸時代後半には、どのような特色をもった文化が展開したのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ なぜ幕府はさまざまな改革を行ったのだろうか。	(1)文化・文政期、江戸を中心に多彩で娯楽性に富んだ町人文化が栄えたことを理解できる。 (2)国学や蘭学などの新しい学問や教育の広がりが社会に与えた影響について考察できる。	①文化・文政期に江戸の庶民を中心に、歌舞伎、浮世絵、小説、川柳、狂歌など、多様な娯楽や文化が栄えたことを理解している。 ①国学や蘭学など新しい学問が発達し、寺子屋、藩校、私塾などさまざまな教育機関がつけられたことを理解している。 ②本時の学習課題について、元禄文化との違いや時代背景に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③ワクチン接種の始まりなどに着目して、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題に対して関心を高めている。 ③節の問いについて振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。

※総時限数を130で構成した(予備7時限分、「身近な地域調査」8時限分、「タイムトラベル」11時限分、「学習を振り返ろう」6時限分を含む。その他の特設ページはここに含めていない)。
 ※身近な地域の調査(8時限分)は、地域の題材に応じて適切な時期に行ってください。

学期	前後期	時限	教科書ページ	項目 (◎学習課題)	目標	評価規準の具体例 ①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度
2年1学期	2年前期	60	158 160	章の学習を振り返ろう 武家政権の展開と世界の動き ■章の問い■ 全国を統一する政権の誕生によって、社会はどのように変化したのだろうか。	(本時の主な学習活動) (1)全国を統一する政権の誕生によって、社会がどのように変化したのかを考えて発表し、意見交換を行うことができる。 (2)近世とはどのような時代か、自分の言葉で表現したり、意見交換を行ったりすることができる。	(評価規準の具体例) ①「全国を統一する政権の誕生によって、社会はどのように変化したのだろうか」という章の問いについて、第4章の学習で獲得した知識を活用して、歴史的事象や変化の時系列を効果的にまとめている。 ②「全国を統一する政権の誕生によって、社会はどのように変化したのだろうか」という章の問いについて、農具や農作物の違いや武器を持つ人々が変化した背景に着目するなどして、多面的・多角的に考察し、近世の特色を適切に表現している。 ③第4章における自身の学習の経緯について振り返り、学習の方法や留意点について自身の学びを確認、調整しようとしている。
				第5章 近代前半 近代国家の歩みと国際社会 ■章の問い■ 近代国家の建設を目指すことによって、社会はどのように変化したのだろうか。	(1)次のような知識を身につけることができる。 (ア) 欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き、(イ) 明治維新と近代国家の形成、(ウ) 議会政治の始まりと国際社会との関わり、(エ) 近代産業の発展と近代文化の形成 (2)次のような思考力、判断力、表現力などを身につけることができる。 (ア) 工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、(1)の(ア)から(エ)までについて近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現できる。 (イ) 近代(前半)の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現できる。	(第2部 第4章の評価規準の具体例) ①欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどをもとに、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解している。 ①開国とその影響、富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮などをもとに、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解している。 ①自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、日清・日露戦争、条約改正などをもとに、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、日本の国際的な地位が向上したことを理解している。 ①日本の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などをもとに、日本で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解している。 ②工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響、経済の変化の政治への影響、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ②近代前半の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③近代前半の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野に「近代国家の建設を目指すことによって、社会はどのように変化したのだろうか」という章の問いを主体的に追究しようとしている。
				第1節 欧米諸国における近代化 ◇節の問い◇ 欧米諸国から始まった近代化とは、どのような変化なのだろうか。	(第1節のねらい) (1)政治体制の変化や人権思想の発達や広がり、現代の政治とのつながりなどと関連づけて、アメリカの独立やフランス革命を取り上げ、政治的な対立と社会の混乱、そこで生じた犠牲などを経て近代民主政治への動きが生まれたことに気づかせる。 (2)工業化による社会の変化という観点から、イギリスなどにおける産業革命を取り上げ、資本主義社会が成立したことや労働問題・社会問題が発生したことに気づかせる。 (3)産業革命の進展に伴って、欧米諸国が新たな工業製品の市場や工業原料の供給地を求めてアジアへの進出を強めたことを理解させる。	(第1節の評価規準の具体例) ①欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどをもとに、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②工業化の進展とそれに伴う政治や社会の変化に着目して、近代化により欧米諸国の政治や社会がどのように変化したかを、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③欧米諸国における近代化の成立とアジア諸国の動きについて、章の問いと関連づけながら「欧米諸国から始まった近代化とは、どのような変化なのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。
2年3学期	2年後期	61	161	章の導入 ■章の問い■ 近代国家の建設を目指すことによって、社会はどのように変化したのだろうか。	(1)これから学習する近代前半(江戸時代末期～明治時代)がどのような時代であったのか、小学校で学んだ人物・出来事を振り返りながら、周りの生徒との対話を通じて自分なりの予想を立てることができる。	①小学校での学習などをもとに、近代前半に該当する時代を把握し、小学校で学習したこの時期の歴史上の人物や出来事を想起することができる。 ②前の章での学習などをもとに、近代前半では前の時代からどのように社会が変化するか、予想し、表現している。 ③「近代国家の建設を目指すことによって、社会はどのように変化したのだろうか」という章の問いに対する学習の見通しを立て、学習を通して近代前半の特色を明らかにしようとしている。
2年3学期	2年後期	62	162 163	1 市民革命の始まり ◎イギリスの革命や、アメリカの独立戦争によって、政治のあり方はどのように変化したのだろうか。	(1)イギリスでは市民革命を通じて立憲君主政と議会政治が確立されたことを理解し、その意義を考えることができる。 (2)アメリカ独立戦争が起こった背景を理解し、独立宣言が出された意義を考えることができる。	①イギリスでは、市民革命を通じて、立憲君主政と議会政治が確立したことを理解している。 ①アメリカ独立戦争が起こった背景と代表制に基づく共和政が確立したことを理解している。 ②本時の学習課題について、イギリスの革命やアメリカの独立戦争の背景に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
2年3学期	2年後期	63	164 165	2 人権思想からフランス革命へ ◎フランス革命によって、政治や社会はどのように変化したのだろうか。	(1)フランスの人々が主権と基本的人権を獲得していく経緯を、フランス革命を通して理解できる。 (2)ナポレオンの登場が、ヨーロッパ諸国や世界に与えた影響について考えることができる。	①フランスの人々が主権と基本的人権を獲得したことを、人権宣言から読み取っている。 ②本時の学習課題について、人権宣言やナポレオンの政策に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
2年3学期	2年後期	64	166 167	3 産業革命と資本主義の成立 ◎産業革命によって、社会はどのように変化したのだろうか。	(1)産業革命が起こった背景と社会の変化を理解し、現代社会との関わりが深いことに気づくことができる。 (2)社会主義の考えが唱えられた理由を、資本主義の問題点から考えることができる。	①産業革命による社会の変化と国民生活への影響を理解し、資本主義の意義と問題点を資料から読み取っている。 ②本時の学習課題について、資本主義や社会主義の考え方に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③工業の発達と生活環境の悪化について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題に対して関心を高めている。
2年3学期	2年後期		168 169	世界とのつながりを考えよう イラスト編② 産業革命期のイギリス	(1)明治時代の産業や文化、現在の生活や暮らしと関連づけながら、当時の日本と世界とのつながりについて多面的・多角的に考察し、近現代の特色を世界の動きとの関わりの中で理解することの大切さに気づく。	①産業革命期のイギリスの想像図から、現在の生活に影響を与えているものを読み取っている。 ②近世までの日本との差異に着目し、これまでの学習内容も生かしながら、現在の生活や暮らしに影響を与えたもの多面的・多角的に考察し、表現している。 ③産業革命期のイギリスの想像図から世界と日本との関わりについて関心を高め、これからの学習に生かそうとしている。
2年3学期	2年後期	65	170 171	4 欧米諸国の近代国家建設 ◎アメリカ・ドイツ・ロシアでは、どのように近代国家の建設を進めたのだろうか。	(1)アメリカ合衆国の領土拡大の経緯と、南北戦争が起こった背景を理解できる。 (2)ドイツとロシアの近代化の特色を理解し、残された課題について考えることができる。	①アメリカ合衆国の領土拡大の経緯を読み取り、南北戦争が起こった背景を貿易や奴隷制に着目して理解している。 ①市民革命が起こらなかったドイツとロシアの近代化の特色を理解している。 ②本時の学習課題について、アメリカ・ドイツ・ロシアが進めた近代化政策の違いと共通点に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③19世紀半ばに出版された「アングル＝トムの小屋」について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題に対して関心を高めている。
2年3学期	2年後期	66	172 175	5 世界進出を目指す欧米諸国 ◎なぜ、欧米諸国は世界各地に植民地を広げていったのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 欧米諸国から始まった近代化とは、どのような変化なのだろうか。	(1)産業革命後、欧米諸国は原料と市場を求めて世界へ進出していったことを理解できる。 (2)欧米諸国の世界進出が、アジア・アフリカの経済や政治に与えた影響を考えることができる。	①イギリスが世界へ進出できた要因を、産業革命との関わりから理解している。 ①インド大反乱が起こった理由を、資料から読み取っている。 ②本時の学習課題について、工業製品の大量生産を可能にしている条件に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③植民地の拡大と医薬品の開発や世界各地に広まった人権思想・民族意識について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題に対して関心を高めている。 ③節の問いについて振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。

※総時限数を130で構成した(予備7時限分、「身近な地域調査」8時限分、「タイムトラベル」11時限分、「学習を振り返ろう」6時限分を含む。その他の特設ページはここに含めていない)。
 ※身近な地域の調査(8時限分)は、地域の題材に応じて適切な時期に行ってください。

学期	前後期	時限	教科書ページ	項目 (◎学習課題)	目 標	評価規準の具体例 ①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③=主体的に学習に取り組む態度
				第2節 開国と幕府の終わり ◇節の問い◇ 欧米諸国が来航するなかで、日本の社会はどのように変化したのだろうか。	(第2節のねらい) (1)欧米諸国のアジア進出と関連づけて、アヘン戦争後に幕府が対外政策を転換して開国したこと、その政治的および社会的な影響を理解させ、それが明治維新の動きを生み出したことに気づかせる。	(第2節の評価規準の具体例) ①欧米諸国のアジア進出に対する清の動き、開国とその影響をもとに、開国によって引き起こされた政治的、社会的な変革によって江戸幕府が滅亡したことを理解するとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②工業化の進展とそれに伴う政治や社会の変化に着目して、欧米諸国の東アジアへの進出が日本の政治や社会に与えた影響を、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③日本を取り巻く世界情勢の変化、開国とその影響について、章の問いと関連づけながら「欧米諸国が来航するなかで、日本の社会はどのように変化したのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。
2年	2年後期	67	176 177	1 日本を取り巻く世界情勢の変化 ◎欧米諸国の来航は、東アジアにどのような影響を与えたのだろうか。	(1)外国船の来航に対する幕府の対応が、異国船打払令から薪水給与令に変化した理由を理解できる。 (2)アヘン戦争が起こった理由を理解し、アヘン戦争が清や日本に与えた影響を考察できる。	①外国船の来航に対する幕府の対応が変化した理由を理解している。 ①アヘン戦争が起こった理由を理解している。 ②本時の学習課題について、アヘン戦争の影響に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
2年	2年後期	68	178 179	2 諸藩の改革と幕府の衰退 ◎幕府が衰退したのは、どのような要因があったのだろうか。	(1)薩摩藩や長州藩、佐賀藩の財政改革の特色を理解し、改革に成功した理由を考察できる。 (2)大塩平八郎の乱や天保の改革の失敗を通じて、幕府政治が動揺して衰退していくことを理解できる。	①薩摩藩や長州藩、佐賀藩の財政改革の特色を理解している。 ①工場制手工業の始まりが、近代産業の基礎となったことを理解している。 ②本時の学習課題について、諸藩の改革と幕府の改革との違いに着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③洗染一揆や濱口梧陵の功績について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題に対して関心を高めている。
2年	2年後期	69	164 165	3 黒船来航の衝撃と開国 ◎開国は、日本の社会にどのような影響を与えたのだろうか。	(1)黒船来航の背景を理解し、日米和親条約と日米修好通商条約が結ばれたことの意味を理解できる。 (2)開国と貿易の拡大が、日本の経済や社会に与えた影響を考察することができる。	①世界進出におくれをとったアメリカが、日本の開国を強く求めたことを理解している。 ①日米修好通商条約の不平等な側面を理解している。 ②本時の学習課題について、政治と経済の両面に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
2年	2年後期	70	182 183	4 江戸幕府の滅亡 ◎江戸幕府は、どのようにして倒れていったのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 欧米諸国が来航するなかで、日本の社会はどのように変化したのだろうか。	(1)薩摩藩と長州藩が、攘夷から倒幕へと考えを変えた理由を考察できる。 (2)大政奉還により江戸幕府が滅亡し、王政復古の大号令により天皇を中心とする新政府の成立が宣言されたことを理解できる。	①大政奉還が行われ、王政復古の大号令が出されたことの意味を理解している。 ②本時の学習課題について、倒幕を進めた勢力と幕府の動きの両面に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③節の問いについて振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。
				第3節 明治政府による近代化の始まり ◇節の問い◇ 明治政府は、どのような国づくりを進めたのだろうか。	(第3節のねらい) (1)明治維新について、複雑な国際情勢の中で独立を保ち、近代国家を形成していった政府や人々の努力に気づかせる。 (2)富国強兵・殖産興業政策の下に新政府が行った、廃藩置県、学制・兵制・税制の改革、身分制度の廃止、領土の画定を取り上げ、学制など今日につながる諸制度がつけられたことや、身分制度の廃止にもかかわらず現実には差別が残ったことに気づかせる。 (3)欧米諸国から取り入れた制度や文化の影響で、社会の様子や人々の生活が大きく変化したことに気づかせる。	(第3節の評価規準の具体例) ①富国強兵や殖産興業の政策、文明開化の風潮などをもとに、明治維新によって近代国家の基礎が整えられ、人々の生活が大きく変化したことを理解するとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②明治政府の諸改革の目的に着目して、諸改革が社会や人々の生活に与えた影響について、また、近世の政治や社会との違いに着目して、近世から近代への転換の様子について考察し、事象を相互に関連づけるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③明治維新と近代国家の形成について、章の問いと関連づけながら「明治政府は、どのような国づくりを進めたのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。
2年	2年後期	71	184 185	タイムトラベル◎ 明治時代を眺めてみよう 1880～90年代のある場面	(1)明治時代のある地方都市の様子を描いた想像図を見て、江戸時代と比べて、どのような点に変化し、どのような共通点があるのかを読み取り、疑問があれば追究すべき課題(生徒自身の「単元を貫く問い」)を設定できる。	①小学校の学習を踏まえて、タイムトラベルの想像図から、明治時代の建物の様子や人々の服装などを読み取っている。 ②江戸時代と明治時代の違いに着目し、タイムトラベルの想像図に描かれている事象を相互に関連づけるなどして、明治時代の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③タイムトラベルの想像図から明治時代の特色を明らかにするための課題を見だし、主体的に追究しようとしている。
2年	2年後期	72	186 187	1 新政府による改革 ◎新政府は、どのような国づくりを目指したのだろうか。	(1)五箇条の御誓文から、新しい政治の方針を読み取り、どのような改革が行われたかを理解できる。 (2)明治政府の政策を通し、新政府の改革が何を目標として行われたのかを考察できる。	①五箇条の御誓文によって新政府の方針が示されたが、実際には藩閥政治が行われたことを理解している。 ①版籍奉還と廃藩置県により幕府と藩という支配の二重構造が廃され、新政府による中央集権の確立が目標されたことを理解している。 ②本時の学習課題について、江戸時代との違いに着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③1871年の布告(いわゆる「解放令」、賤民廃止令)後の差別からの解放運動について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題に対して関心を高めている。
2年	2年後期	73	188 189	2 富国強兵を目指して ◎日本を欧米諸国に並ぶ強い国にするため、どのような政策が行われたのだろうか。	(1)官営工場の設立や通信・交通の近代化、徴兵令、地租改正など、富国強兵を目指してさまざまな政策が行われたことを理解できる。 (2)富国強兵を目指して行われた政策や制度が、社会や人々の生活に与えた影響を考察できる。	①徴兵令や帯刀の禁止、俸禄の廃止などの改革は、士族の特権を奪い、士族の新政府への不満を高めたことを理解している。 ②本時の学習課題について、軍備や産業、税制、教育制度相互の関係に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
2年	2年後期	74	190 191	3 文明開化と新政府の政策 ◎新政府が進めた新しい政策や欧米の文化を、人々はどのように受け止めたのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 明治政府は、どのように国づくりを進めたのだろうか。	(1)「文明開化」が進み、欧米の文化や生活様式が広まり、教育の近代化が進められたことを理解できる。 (2)新政府の政策に反対する動きが各地で起こった理由を、国民の負担に着目して考察できる。	①「富国強兵」と近代化を実現させるためには、国民の知識を高め、人材を育てることが必要だったことを理解している。 ②本時の学習課題について、「血税一揆」や士族反乱などが起こった背景に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③節の問いについて振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。

※総時限数を130で構成した(予備7時限分、「身近な地域調査」8時限分、「タイムトラベル」11時限分、「学習を振り返ろう」6時限分を含む。その他の特設ページはここに含めていない)。
 ※身近な地域の調査(8時限分)は、地域の題材に応じて適切な時期に行ってください。

学期	前後期	時限	教科書ページ	項目 (◎学習課題)	目標	評価規準の具体例 ①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③=主体的に学習に取り組む態度
				第4節 近代国家への歩み ◇節の問い◇ 日本の近代国家の建設は、どのような成果と課題を生んだのだろうか。	(第4節のねらい) (1)自由民権運動の全国的な広がり、政党の結成、憲法の制定過程とその内容の特徴を取り上げ、大日本帝国憲法の制定によって当時アジアで唯一の立憲制の国家が成立したことを踏まえ、立憲制の国家が成立して議会政治が始まったことの歴史上の意義や、現代の政治とのつながりに気づかせる。	(第4節の評価規準の具体例) ①新政府による外交、自由民権運動、大日本帝国憲法をもとに、立憲制の国家が成立して議会政治が始まったことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②大日本帝国憲法と帝国議会の成立過程に着目して、外国との関係や現代の政治とのつながりを、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③議会政治の始まりについて、章の問いと関連づけながら「日本の近代国家の建設は、どのような成果と課題を生んだのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。
2年	2年後期	75	194 195	1 新たな外交と国境の画定 ◎新政府は近代国家をつくるために、どのような外交政策を進めたのだろうか。	(1)新政府が岩倉使節団を派遣した目的やその成果を理解し、その後の外交政策や産業の発展に与えた影響について考えることができる。 (2)新政府が国境を画定した経緯とその課題について、主体的に追究できる。	①新政府が岩倉使節団を派遣した目的とその成果を、欧米諸国との不平等条約と留学生の同行に着目して理解している。 ②新政府が国境を画定していった理由を、近代国家の特徴を踏まえて理解している。 ③本時の学習課題について、欧米諸国、中国、朝鮮との領事裁判権の取り扱いに着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
2年	2年後期	76	196 197	2 沖縄・北海道と近代化の波 ◎新政府は近代国家をつくるために、沖縄や北海道に対してどのような政策を進めたのだろうか。	(1)沖縄や北海道が日本の統治下に置かれ、近代化が推し進められていく過程を理解できる。 (2)新政府が沖縄と北海道を日本の統治下に置こうとした理由を、近隣諸国との関係から考えることができる。	①琉球が沖縄県として日本の統治下に置かれた過程を、薩摩藩の支配や琉球と清の歴史的な関係の変遷から理解している。 ②新政府が北海道の本格的な統治と開拓を進めた理由を、ロシアに対する北方の防備と土族の救済という視点に着目して理解している。 ③本時の学習課題について、沖縄の人々やアイヌ民族の生活や文化の変化に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
2年	2年後期	77	200 201	3 自由と民権を求めて ◎政府に不満をもつ人々はどのような活動を行い、それに対して政府はどのように対応したのだろうか。	(1)西南戦争後、新政府への抵抗が武力から言論に変化し、自由民権運動が広がっていったことを理解できる。 (2)自由民権運動の広がりが国会の開設や憲法の制定に与えた影響とその課題を考えることができる。	①板垣退助など自由民権運動の活動家たちが、国会開設の過程において、それぞれがどのような行動をとったのかを読み取り、理解している。 ②本時の学習課題について、自由民権運動の発展と衰退に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
2年	2年後期	78	202 203	4 帝国憲法の成果と課題 ◎大日本帝国憲法の成立によって、政治や社会はどのように変化したのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 日本の近代国家の建設は、どのような成果と課題を生んだのだろうか。	(1)大日本帝国憲法のおおまかな特色を理解し、その成果と課題を考えることができる。 (2)帝国議会のしくみや明治時代の選挙のしくみを現在と比較し、それぞれの特色を理解できる。 (3)民法に見る「家制度」や女性の権利に関する課題を、主体的に追究できる。	①大日本帝国憲法における天皇と国民の立場や権利を条文から適切に読み取り、理解している。 ②帝国議会や選挙のしくみの主な点について、現在との違いを理解している。 ③本時の学習課題について、天皇や議会の権限、国民の参政権に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ④日本での選挙の始まりについて、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題に対して関心を高めている。
				第5節 帝国主義と日本 ◇節の問い◇ なぜ日本は不平等条約を改正することができたのだろうか。	(第5節のねらい) (1)国内の社会状況や国際情勢との関わりなどの背景を踏まえて、欧米諸国と対等の外交関係を樹立するための長年の努力の過程で条約改正が実現したことを理解させる。 (2)大陸との関係を踏まえて、日清・日露戦争に至るまでの日本の動き、戦争のあらましと国内外の反応、韓国の植民地化などを取り上げ、日本の国際的地位が向上したことを理解させる。	(第5節の評価規準の具体例) ①日清・日露戦争での勝利や不平等条約の改正などをもとに、日本の国際的な地位が向上したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②外交の展開に着目して、日清・日露戦争が国内外に与えた影響について事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③国際社会との関わりについて、章の問いと関連づけながら「なぜ日本は不平等条約を改正することができたのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。
2年	2年後期	79	206 207	1 アジアの列強を目指して ◎明治政府は条約改正に向けて、どのような取り組みを行ったのだろうか。	(1)帝国主義の意味と、イギリス・ロシアの世界進出およびその対立の過程を理解できる。 (2)条約改正の経過を理解し、領事裁判権を撤廃することができた理由を、明治政府の国内での取り組みと世界情勢の変化から考えることができる。	①列強が積極的に海外に進出し、植民地支配を広げた理由を理解している。 ②帝国主義を進めるイギリスとロシアは、東アジアでも対立を深めていたことを理解している。 ③本時の学習課題について、当時の世界情勢に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
2年	2年後期	80	208 209	2 朝鮮をめぐる対立 日清戦争 ◎日清戦争の結果、国内や東アジアではどのような変化が起こったのだろうか。	(1)朝鮮をめぐる日本と清との対立から日清戦争が始まったことを理解できる。 (2)日清戦争後、日本・中国・朝鮮の関係がどのように変化していったか考えることができる。	①日清戦争が起こった背景を、朝鮮国内の分裂を利用しようとした日本と清の対立から理解している。 ②本時の学習課題について、政府と政党の関係や日本・清・朝鮮の関係に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
2年	2年後期	81	210 211	3 世界が目撃した日露戦争 ◎日露戦争によって、日本国内の状況や外国との関係はどのように変化したのだろうか。	(1)日露戦争が起こった理由を、世界の動きや日本国内の情勢から理解できる。 (2)日露戦争が、その後の日本社会や世界に与えた影響と変化について考えることができる。	①日露戦争が起こった背景を、中国に進出しようとする日本とロシアの対立から理解している。 ②本時の学習課題について、戦果に対する国民の関心の高さやアメリカやイギリスとの関係の変化に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
2年	2年後期	82	212 213	4 塗り替えられたアジアの地図 ◎日清・日露戦争の後、朝鮮・中国ではどのような変化が見られたのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ なぜ日本は不平等条約を改正することができたのだろうか。	(1)日露戦争後、日本はアジアへ進出する立場に変化していったことを考察できる。 (2)中国では、辛亥革命によりアジアで最初の共和政が確立されたことを理解できる。	①中国では、辛亥革命により中華民国が成立し、アジアで最初の共和政が確立されたことを理解している。 ②本時の学習課題について、朝鮮半島や満州での日本の政策に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③孫文と神戸とのかかわりについて、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題に対して関心を高めている。 ④節の問いについて振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。

※総時限数を130で構成した(予備7時限分、「身近な地域調査」8時限分、「タイムトラベル」11時限分、「学習を振り返ろう」6時限分を含む。その他の特設ページはここに含めていない)。
 ※身近な地域の調査(8時限分)は、地域の題材に応じて適切な時期に行ってください。

学期	前後期	時限	教科書ページ	項目 (◎学習課題)	目標	評価規準の具体例 ①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③=主体的に学習に取り組む態度
				第6節 アジアの強国の光と影 ◇節の問い◇ なぜ、近代化によって人々の生活が大きく変化したのだろうか。	(第6節のねらい) (1)富国強兵・殖産興業政策の下、製糸業、紡績業や鉄鋼業などの近代産業が日清戦争前後から飛躍的に発展して、資本主義経済の基礎が固まったこと、都市や農山漁村の生活に大きな変化が生じたことに気づかせる。 (2)近代化遺産を取り上げるなど、身近な地域を例としながら、鉄道網の広がりや工業の発達などによって人々の生活の変化がみられた一方で、労働問題や社会問題が発生したことに気づかせる。 (3)伝統的な文化の上に欧米文化を受容して、日本の近代文化が形成されたことに気づかせる。	(第6節の評価規準の具体例) ①日本の産業革命と国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などをもとに、日本で近代産業が発達し、近代文化が形成されたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②近代化がもたらした文化への影響などに着目して、工業化の進展が国民生活や文化に与えた影響について、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③近代産業の発達と近代文化の形成について、章の問いと関連づけながら「なぜ、近代化によって人々の生活が大きく変化したのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。
3年1学期	3年前期	83	214 215	1 近代日本を支えた糸と鉄 ◎日本の軽工業や重工業は、どのように発展していったのだろうか。	(1)日本の産業革命は、紡績業や製糸業などの軽工業から、鉄鋼や戦艦などの重工業へと発展していったことを理解できる。 (2)軽工業と重工業の発展が日本の経済と産業に与えた影響を、輸出の増大や軍需産業と鉄道の発達、財閥の登場などに着目して考えることができる。	①近代日本の工業が、軽工業から重工業に転換していった過程を、鉄道の発達や日清・日露戦争との関わりから理解している。 ②本時の学習課題について、日清・日露戦争との関係に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
3年1学期	3年前期	84	218 219	2 変わる都市と農村 ◎工業化の進展は、人々の生活にどのような影響を与えたのだろうか。	(1)日本はアジアで唯一近代化に成功したが、国民の生活は向上せず貧富の差が広がったことを理解できる。 (2)工業化の進展が人々の生活に与えた影響を、労働問題や社会主義運動の高まり、公害の発生などに着目して考察し、社会の課題について主体的に追究できる。	①列強への仲間入りをした意識が高まる一方で、農村では小作農の増加や、工業化の発展に伴う社会問題や社会主義運動が起こってきたことを理解している。 ②本時の学習課題について、農村や都市の生活の変化に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③足尾鉍毒事件について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題に対して関心を高めている。
3年1学期	3年前期	85	220 223	3 欧米の影響を受けた近代文化 ◎明治時代には、どのような特色をもった文化が展開したのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ なぜ、近代化によって人々の生活が大きく変化したのだろうか。	(1)欧米の文化の影響を受けて、新しい文化が形成されたことを理解できる。 (2)学校教育が近代化に果たした役割を考え、その成果と課題を主体的に追究することができる。	①日本の伝統的な文化に欧米文化が取り入れられ、近代文化が形成されたことを理解している。 ②本時の学習課題について、学校教育が果たした役割に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③明治三陸大津波と義援金、島崎藤村、衛生政策の始まりについて、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題に対して関心を高めている。 ④節の問いについて振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。
3年1学期	3年前期	86	224 226	章の学習を振り返ろう 近代国家の歩みと国際社会 ■章の問い■ 近代国家の建設を目指すことによって、社会はどのように変化したのだろうか。	(本時の主な学習活動) (1)日本の「近代化」を観点ごとに評価し、最も重視したい観点を選んでその理由を説明する。 (2)近代前半とはどのような時代か、自分の言葉で表現したり、意見交換を行ったりする。	(評価規準の具体例) ①「近代国家の建設を目指すことによって、社会はどのように変化したのだろうか」という章の問いについて、第5章の学習で獲得した知識を活用して、自分の考えをまとめている。 ②「近代国家の建設を目指すことによって、社会はどのように変化したのだろうか」という章の問いについて、戦いの役割を担う人の移り変わりや近い時期のイギリスとの共通点に着目するなどして、多面的・多角的に考察し、近代前半の特色を適切に表現するとともに、現在とのつながりについて考察している。 ③第5章における自身の学習の経緯について振り返り、学習の方法や留意点について自身の学びを確認、調整しようとしている。
				第6章 近代後半 二度の世界大戦と日本 ■章の問い■ 二度の世界大戦を経験することによって、社会はどのように変化したのだろうか。	(1)次のような知識を身につけることができる。 (ア) 第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現、(イ) 第二次世界大戦と人類への惨禍 (2)次のような思考力、判断力、表現力などを身につけることができる。 (ア) 戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと日本との関連などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、(1)の(ア)および(イ)について近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現できる。 (イ) 近代(後半)の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現できる。	(第2部 第5章の評価規準の具体例) ①第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動き、日本国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などをもとに、第一次世界大戦前後の国際情勢および日本の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解している。 ①経済的世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの日本の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などをもとに、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解している。 ②戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと日本との関連などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③近代後半の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野に「二度の世界大戦を経験することによって、社会はどのように変化したのだろうか」という章の問いを主体的に追究しようとしている。
				第1節 第一次世界大戦と民族独立の動き ◇節の問い◇ 第一次世界大戦は、世界にどのような変化をもたらしたのだろうか。	(第1節のねらい) (1)ヨーロッパ諸国間の対立や民族問題を背景として第一次世界大戦が起こったことに気づかせるとともに、日本の参戦、ロシア革命などを取り上げて、世界の動きと日本との関連を踏まえて、大戦がその後の国際情勢および日本に大きな影響を及ぼしたことに気づかせる。 (2)国際連盟の成立、中国や朝鮮、インドにおける民族運動の高まり、軍縮条約の締結を取り上げ、日本がどのように対応したかを理解させる。	(第1節の評価規準の具体例) ①第一次世界大戦が起こった背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動きなどをもとに、第一次世界大戦前後の国際情勢及び日本の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②第一次世界大戦前後の世界の動きと日本との関連に着目して、第一次世界大戦が世界や日本に与えた影響について、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③第一次世界大戦後の国際情勢について、章の問いと関連づけながら「第一次世界大戦は、世界にどのような変化をもたらしたのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。
3年1学期	3年前期	87	227	章の導入 ■章の問い■ 二度の世界大戦を経験することによって、社会はどのように変化したのだろうか。	(1)これから学習する近代後半(大正時代～昭和時代前半)がどのような時代であったのか、小学校で学んだ人物・出来事を振り返りながら、周りの生徒との対話を通じて自分なりの予想を立てることができる。	①小学校での学習などをもとに、近代後半に該当する時代を把握し、小学校で学習したこの時期の歴史上の人物や出来事を想起することができる。 ②前の章での学習などをもとに、近代後半では前の時代からどのように社会が変化するか、予想し、表現している。 ③「二度の世界大戦を経験することによって、社会はどのように変化したのだろうか」という章の問いに対する学習の見通しを立て、学習を通して近代後半の特色を明らかにしようとしている。
3年1学期	3年前期	88	228 229	1 第一次世界大戦の始まりと総力戦 ◎第一次世界大戦は、それまでの戦争とどのような違いがあったのだろうか。	(1)第一次世界大戦が起こった背景とその特徴を理解できる。 (2)第一次世界大戦が世界規模の戦争になり、総力戦となった理由を考察できる。	①第一次世界大戦の背景を、三国同盟や三国協商などの同盟関係や、バルカン半島における対立などに着目して理解している。 ②本時の学習課題について、戦争の規模に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③インフルエンザの世界的な流行について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題に対して関心を高めている。

※総時限数を130で構成した(予備7時限分、「身近な地域調査」8時限分、「タイムトラベル」11時限分、「学習を振り返ろう」6時限分を含む。その他の特設ページはここに含めていない)。
 ※身近な地域の調査(8時限分)は、地域の題材に応じて適切な時期に行ってください。

学期	前後期	時限	教科書ページ	項目 (◎学習課題)	目標	評価規準の具体例 ①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③=主体的に学習に取り組む態度
3年1学期	3年前期	89	230 231	2 第一次世界大戦の拡大と日本 ◎日本は、第一次世界大戦やロシア革命にどのように関わったのだろうか。	①日本は、第一次世界大戦にどのように関わったのか、資料などから読み取ることができる。 ②シベリア出兵を行った理由を、ロシア革命との関わりから考察できる。	①日本が第一次世界大戦に参戦した理由を、二十一条の要求から読み取っている。 ②本時の学習課題について、日本の中国に対する政策に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③板東俘虜収容所でのドイツ兵捕虜との交流について、よりよい社会の実現を視野に、ここで見られる課題に対して関心を高めている。
3年1学期	3年前期	90	232 233	3 第一次世界大戦後の欧米諸国 ◎第一次世界大戦後の欧米諸国では、どのような変化が起こったのだろうか。	①パリ講和会議の主な取り決めに理解し、欧米諸国にどのような変化が起こったのかを理解できる。 ②第一次世界大戦後に進められた民族自決の動きと国際連盟の設立について、それらの課題と併せて考察できる。	①ベルサイユ条約が戦勝国と敗戦国に与えた影響を理解している。 ①第一次世界大戦後、国際連盟が設立され、民族自決の動きが活発になったことを理解している。 ②本時の学習課題について、ドイツやアメリカの動きに着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③女性の参政権について、よりよい社会の実現を視野に、ここで見られる課題に対して関心を高めている。
3年1学期	3年前期	91	234 235	4 アジアの民族自決と国際協調 ◎第一次世界大戦後、アジアではどのような運動が起こったのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 第一次世界大戦は、世界にどのような変化をもたらしたのだろうか。	①第一次世界大戦後、朝鮮・インド・中国で起こった民族運動の背景とその影響を考察できる。 ②第一次世界大戦後、世界では国際協調と軍縮が進められたことを理解できる。	①朝鮮・インド・中国で起こった運動の概要を表に整理し、それぞれの目的などを適切にまとめ、理解している。 ①パリ講和会議やワシントン会議、ロンドン海軍軍縮会議の要点を理解している。 ②本時の学習課題について、民族自決の考え方の広がりやアジア諸国の現状に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③柳宗悦や浅川巧の活動について、よりよい社会の実現を視野に、ここで見られる課題に対して関心を高めている。 ③節の問いについて振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。
第2節 高まる民主主義の意識 ◇節の問い◇ なぜ、自由で民主主義的な考え方が広まったのだろうか。					(第2節のねらい) ①国民の政治的自覚が高まり、本格的な政党内閣による政党政治が展開したこと、男子普通選挙が実現したこと、米騒動をはじめ、労働運動、農民運動、社会主義運動などの社会運動が幅広く行われるようになったこと、女性の社会的進出が進んだことなどに気づかせる。 ②大都市の発達や都市に住む人々の生活様式や意識の変化、新聞・雑誌などの普及やラジオ放送の開始などを取り上げ、文化の大衆化が進んだことを理解させる。	(第2節の評価規準の具体例) ①第一次世界大戦前後の日本の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などをもとに、大正デモクラシーの時期の政治や社会の動きを理解するとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②第一次世界大戦後の世界の動きと日本との関係に着目して、大衆の出現と政治や社会の変化について、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現について、章の問いと関連づけながら「なぜ、自由で民主主義的な考え方が広まったのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。
3年1学期	3年前期	82	236 237	タイムトラベル⑩ 大正～昭和初期を眺めてみよう 1920～30年代のある場面	①大正時代から昭和初期のころに産業が発達してきたある地方都市の駅前の様子を描いた想像図を見て、明治時代と比べて、どのような点が変わり、どのような共通点があったのかを読み取り、疑問があれば追究すべき課題(生徒自身の「単元を貫く問い」)を設定できる。	①小学校の学習を踏まえて、タイムトラベルの想像図から、大正時代の交通手段や人々の娯楽などを読み取っている。 ②明治時代と大正時代の違いに着目し、タイムトラベルの想像図に描かれている事象を相互に関連づけるなどして、時代の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③タイムトラベルの想像図から大正時代の特色を明らかにするための課題を見だし、主体的に追究しようとしている。
3年1学期	3年前期	93	238 239	1 護憲運動と政党内閣の成立 ◎第一次世界大戦前から後にかけて、どのようにして自由で民主主義的な風潮が高まったのだろうか。	①第一次世界大戦中、日本経済が急成長した理由と、その後の社会への影響について理解できる。 ②本格的な政党内閣が成立した理由を、護憲運動や米騒動など民主主義を求める動きや世論の力に着目して考察できる。	①第一次世界大戦で輸出が増え、重工業が急成長したことで大戦景気とよばれる好景気になったことを理解している。 ①護憲運動とはどのような運動か、自由民権運動との違いに着目し、理解している。 ②本時の学習課題について、世論の力の増大に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
3年1学期	3年前期	94	240 241	2 社会運動の高まりと男子普通選挙の実現 ◎民主主義を求める社会運動は、どのように展開したのだろうか。	①2度目の護憲運動により、男子普通選挙制が実現し、国民の政治参加の意識が高まったことを理解できる。 ②国民の意識の高まりから、さまざまな社会運動が現れたことを理解し、ここで見られる課題を主体的に追究できる。	①当時のさまざまな社会運動や政党政治の実現などに着目し、大正デモクラシーがどのような風潮を意味するのか理解している。 ②本時の学習課題について、当時の社会問題に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③全国水平社の結成について、よりよい社会の実現を視野に、ここで見られる課題に対して関心を高めている。
3年1学期	3年前期	95	242 245	3 近代都市に現れた大衆文化 ◎大正時代から昭和時代初期には、どのような特色をもった文化が展開したのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ なぜ、自由で民主主義的な考え方が広まったのだろうか。	①工業の発達により、都市に労働者やサラリーマンが増加し、文化の大衆化が進んだことを理解できる。 ②住居や食事、生活習慣など、さまざまな場面に欧米の影響を受けた生活様式が広まったことを理解できる。 ③関東大震災がその後の都市計画など社会に与えた影響について、主体的に追究できる。	①現代につながる欧米の文化や習慣が、大正から昭和初期の時期に広まったことを、効果的にまとめ、理解している。 ②本時の学習課題について、学校教育を受けて育った大衆の生活に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③インフルエンザの流行による生活の変化や洋菓子の普及、関東大震災について、よりよい社会の実現を視野に、ここで見られる課題に対して関心を高めている。 ③節の問いについて振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。
第3節 戦争に向かう世論 ◇節の問い◇ なぜ、世界や日本では、ファシズムや軍国主義の風潮が強まっていったのだろうか。					(第3節のねらい) ①世界恐慌に対する各国の対策と対立の深刻化、日本における経済の混乱と社会不安の広がりを取り上げ、政党政治が行き詰まりをみせ、軍部が台頭して大陸での勢力を拡張したこと、国際連盟を脱退した日本がドイツと日独防共協定を結んでアメリカやイギリスと対立を深めたこと、中国との戦争が長期化した経緯を理解させる。	(第3節の評価規準の具体例) ①世界恐慌による経済的世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦までの日本の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米の動きなどをもとに、軍部の台頭から第二次世界大戦に至るまでの経過を理解するとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②戦争に向かう時期の社会や生活の変化などに着目して、第二次世界大戦が起こった理由について、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③昭和初期から第二次世界大戦までの世界と日本の政治・外交の動きについて、章の問いと関連づけながら「なぜ、世界や日本では、ファシズムや軍国主義の風潮が強まっていったのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。
3年1学期	3年前期	97	250 251	タイムトラベル⑪ 第二次世界大戦期を眺めてみよう 1941年ごろのある場面	①第二次世界大戦の時代の阪神地域のある都市の様子を描いた想像図を見て、大正～昭和初期と比べて、どのような点が変わり、どのような共通点があるのかを読み取り、疑問があれば追究すべき課題(生徒自身の「単元を貫く問い」)を設定できる。	①小学校の学習を踏まえて、タイムトラベルの想像図から、第二次世界大戦期の学校の様子や戦争と関連した人々の様子などを読み取っている。 ②大正時代と第二次世界大戦期の違いに着目し、タイムトラベルの想像図に描かれている事象を相互に関連づけるなどして、時代の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③タイムトラベルの想像図から第二次世界大戦期の特色を明らかにするための課題を見だし、主体的に追究しようとしている。

※総時限数を130で構成した(予備7時限分、「身近な地域調査」8時限分、「タイムトラベル」11時限分、「学習を振り返ろう」6時限分を含む。その他の特設ページはここに含めていない)。
 ※身近な地域の調査(8時限分)は、地域の題材に応じて適切な時期に行ってください。

学期	前後期	時限	教科書ページ	項目 (◎学習課題)	目標	評価規準の具体例 ①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度
3年1学期	3年前期	98	252 253	1 世界恐慌と行き詰まる日本 ◎世界恐慌は、日本へどのような影響を与えたのだろうか。	(1)アメリカから始まった恐慌が、どのように世界に広がり、どのような影響を各国に与えたか理解できる。 (2)世界恐慌が日本に与えた影響を、農村の窮乏や政党政治の行き詰まりに着目して考察できる。	①不景気の影響から日本で起こった出来事を読み取り、都市と農村に分けて適切にまとめ、理解している。 ②本時の学習課題について、都市や農村の生活の変化が政治に与えた影響に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
3年1学期	3年前期	99	254 255	2 欧米諸国が選択した道 ◎世界恐慌に対して、欧米諸国はどのように対応したのだろうか。	(1)世界恐慌後の世界の経済状況を理解させ、各国がとった対応について考えることができる。 (2)ドイツやイタリアでファシズムが台頭してきた理由を考察し、ファシズムや独裁者に対抗する動きが芸術分野で見られた背景を主体的に追究できる。	①アメリカ・イギリス・フランス・ソ連が行った経済政策を読み取らせ、ブロック経済など共通している内容やその目的を表などで適切にまとめ、理解している。 ②本時の学習課題について、ブロック経済の影響に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③「ゲルニカ」について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題に対して関心を高めている。
3年1学期	3年前期	100	256 257	3 強まる軍部と衰える政党 ◎満州事変以後、政党政治はどのように変化したのだろうか。	(1)満州事変の概要を理解させ、満州への進出を民衆や新聞が支持した理由を考察できる。 (2)満州事変以後、五・一五事件と二・二六事件を通じて、軍部が台頭してきたことを理解できる。	①五・一五事件と二・二六事件の影響について、政党政治が途絶え、軍部が力を強めていった経緯を理解している。 ②本時の学習課題について、軍部の動きとそれに対する世論に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
3年1学期	3年前期	101	258 259	4 日中戦争と総力戦に向かう国民生活 ◎日本は戦争を進めるために、どのような政策を行ったのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ なぜ、世界や日本では、ファシズムや軍国主義の風潮が強まっていったのだろうか。	(1)盧溝橋事件をきっかけに日中戦争が始まったことを理解させ、戦争が長期化した理由を考察できる。 (2)国内では、長期化する戦争に協力するための法律や組織が生まれ、国民生活に大きな影響を与えたことを理解できる。	①日中戦争開戦の経緯と、その後日本と中国の国内で起こった動きを理解している。 ①戦争を進めるために、政府が国民に対して行った政策を読み取り、それぞれのねらいについて適切にまとめて理解している。 ②本時の学習課題について、大正期の政治や生活との違いに着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③節の問いについて振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。
第4節 第二次世界大戦の惨禍 ◇節の問い◇ なぜ世界や日本は、二度目の世界大戦を起こしてしまったのだろうか。				(第4節のねらい) (1)日本がドイツ、イタリアと三国同盟を結び、アメリカ、イギリス、そして終戦直前に参戦したソビエト連邦などとの大戦になったこと、日本が多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して多大な損害を与えたこと、各地への空襲、沖縄戦、広島・長崎への原子爆弾の投下など、日本の国民も大きな戦禍を受けたことなどから、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させ、国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であることに気づかせる。 (2)戦時体制下で国民の生活がどう変わったかについて、身近な地域の事例を取り上げ、平和な生活を築くことの大切さに気づかせる。	(第4節の評価規準の具体例) ①第二次世界大戦中の日本の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、戦時下の国民の生活などをもとに、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②第二次世界大戦の始まりから終結までの世界の動きと日本との関連などに着目して、第二次世界大戦の惨禍について事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③第二次世界大戦と人類への惨禍について、章の問いと関連づけながら「なぜ世界や日本は、二度目の世界大戦を起こしてしまったのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。	
3年1学期	3年前期	102	262 263	1 第二次世界大戦への道 ◎第二次世界大戦が始まってから、日本は欧米諸国とどのような関係を築こうとしたのだろうか。	(1)各国の同盟関係を背景に、ドイツがポーランドに侵攻し、第二次世界大戦が始まったことを理解できる。 (2)開戦前の日米関係に着目し、日本がインドシナ南部に侵攻した理由を考察できる。	①日本が日独伊三国同盟、日ソ中立条約を結んだ目的を、適切に読み取り理解している。 ①第二次世界大戦が始まって以降の、日本とドイツ・アメリカ・ソ連などの関係とその変化を理解している。 ②本時の学習課題について、日本とドイツ・アメリカ・ソ連との関係に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③ユダヤ人の命を救おうとした杉原千蔵や樋口季一の行動について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題に対して関心を高めている。
3年1学期	3年前期	103	264 265	2 太平洋戦争と植民地支配の変化 ◎日本の植民地や占領下の地域では、どのような政策が行われたのだろうか。	(1)太平洋戦争開戦の経緯を踏まえ、植民地や占領下の地域で日本がどのような政策を行ったかを理解できる。 (2)日本の植民地や占領下の地域で抗日運動が起こった理由を考察することができる。	①日本軍が掲げた「大東亜共栄圏」の考え方やアジアの人々のとらえ方を、資料などから適切に読み取り、理解している。 ②本時の学習課題について、日本の植民地や占領下の地域で抵抗運動が起こったことに着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③戦時下での子どもの文化の変化について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題に対して関心を高めている。
3年1学期	3年前期	104	266 267	3 戦局の悪化と戦時下の暮らし ◎戦局の悪化によって、日本人々の生活はどのように変化したのだろうか。	(1)戦局が悪化した経過と、その状況下で国民はどのような暮らしを強いられただかを理解できる。 (2)本土への空襲や沖縄への上陸が行われるようになった理由を考察し、適切に表現できる。	①戦局が悪化したことにより、国民生活がどのように変化したかを理解している。 ①ヨーロッパ戦線での終戦の経緯を理解している。 ②本時の学習課題について、マスメディアの働きに着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
3年1学期	3年前期	105	270 271	4 ポツダム宣言と日本の敗戦 ◎第二次世界大戦は、日本や世界にどのような影響を与えたのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ なぜ世界や日本は、二度目の世界大戦を起こしてしまったのだろうか。	(1)原爆の投下、ソ連の満州・南樺太侵攻などによりさらに多くの犠牲者を出しながら、ポツダム宣言の受諾によって、終戦となったことを理解できる。 (2)第二次世界大戦がもたらした惨禍に着目し、戦争の悲惨さについて考察できる。	①ヤルタ会談、東京大空襲、沖縄戦、ドイツの降伏、広島・長崎への原爆投下、ソ連参戦、ポツダム宣言受諾など、1945年の世界と日本の動きを表などにまとめ、理解している。 ②本時の学習課題について、戦争の惨禍による損害の大きさに着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③節の問いについて振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。
3年1学期	3年前期	106	272 274	章の学習を振り返ろう 二度の世界大戦と日本 ■章の問い■ 二度の世界大戦を経験することによって、社会はどのように変化したのだろうか。	(本時の主な学習活動) (1)「近代化」が進展した日本で、世論が求めたものが何かを考え、世論が大きく転換した時期を選び、その理由を説明する。 (2)近代後半とはどのような時代か、自分の言葉で表現したり、意見交換を行ったりする。	(評価規準の具体例) ①「二度の世界大戦を経験することによって、社会はどのように変化したのだろうか」という章の問いについて、第6章の学習で獲得した知識を活用して、自分の考えをまとめている。 ②「二度の世界大戦を経験することによって、社会はどのように変化したのだろうか」という章の問いについて、映画の上演作品のシーンや主婦たちの行動の背景に着目するなどして多面的・多角的に考察し、近代後半の特色を適切に表現するとともに、現在とのつながりについて考察している。 ③第6章における自身の学習の経緯について振り返り、学習の方法や留意点について自身の学びを確認、調整しようとしている。

※総時限数を130で構成した(予備7時限分、「身近な地域調査」8時限分、「タイムトラベル」11時限分、「学習を振り返ろう」6時限分を含む。その他の特設ページはここに含めていない)。
 ※身近な地域の調査(8時限分)は、地域の題材に応じて適切な時期に行ってください。

学期	前後期	時限	教科書ページ	項目 (◎学習課題)	目標	評価規準の具体例 ①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③=主体的に学習に取り組む態度
				第7章 現代 現在に続く日本と世界 ■章の問い■ 戦後の日本の社会はどのように変化し、現在へつながってきたのだろうか。	①次のような知識を身につけることができる。 (ア)日本の民主化と冷戦下の国際社会、(イ)日本の経済の発展とグローバル化する世界 ②次のような思考力、判断力、表現力などを身につけることができる。 (ア)諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、①の(ア)および(イ)について現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現できる。 (イ)現代の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現できる。 (ウ)これまでの学習を踏まえ、歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって多面的・多角的に考察、構想し、表現できる。	〈第2部 第6章の評価規準の具体例〉 ①冷戦、日本の民主化と再建の過程、国際社会への復帰などをもとに、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きのなかで新しい日本の建設が進められたことを理解している。 ①高度経済成長、国際社会との関わり、冷戦の終結などをもとに、日本の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において日本の役割が大きくなってきたことを理解している。 ②諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ②現代の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 ②これまでの学習を踏まえ、歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ③現代の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野に「戦後の日本の社会はどのように変化し、現在へつながってきたのだろうか」という章の問いを主体的に追究、解決しようとしている。
				第1節 敗戦から立ち直る日本 ◇節の問い◇ 第二次世界大戦後、日本は独立の回復に向けて、どのような取り組みを行ってきたのだろうか。	〈第1節のねらい〉 ①戦後の混乱のなかで、国民の貧しさからの解放の願いや平和と民主主義への期待などを背景に、普通選挙の確立や日本国憲法の制定をはじめとして大きな改革が次々に進められ、国民が苦難を乗り越えて新しい日本の建設に努力し、現代の日本の骨組みが形成されたことに気づかせる。 ②日本国憲法の基本的原則からその歴史的意義を読み取らせる。 ③戦後の混乱や生活の様子、国民の努力について、身近な地域などの具体的な事例をもとに捉えさせる。 ④冷戦について、国際連合の発足、米ソ両陣営の対立、アジア諸国の独立、朝鮮戦争、その後の平和共存の動きなどを、日本の動きと関連させながら理解させる。	〈第1節の評価規準の具体例〉 ①冷戦、日本の民主化と再建などをもとに、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②戦後の諸改革の展開と国際社会の変化に着目し、民主化が日本の社会に及ぼした変化や、冷戦に伴う東アジアの変化と日本の関わりについて、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③日本の民主化と冷戦下の国際社会について、章の問いと関連づけながら「第二次世界大戦後、日本は独立の回復に向けて、どのような取り組みを行ってきたのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。
3 年 1 学 期	3 年 前 期	107	275	章の導入 ■章の問い■ 戦後の日本の社会はどのように変化し、現在へつながってきたのだろうか。	①これから学習する現代(昭和時代後半～現在)がどのような時代であったのか、小学校で学んだ人物・出来事を振り返りながら、周りの生徒との対話を通じて自分なりの予想を立てることができる。	①小学校での学習などをもとに、現代に該当する時代を把握し、小学校で学習したこの時期の出来事を想起することができる。 ②前の章での学習などをもとに、現代では前の時代からどのように社会が変化するか、予想し、表現している。 ③「戦後の日本の社会はどのように変化し、現在へつながってきたのだろうか」という章の問いに対する学習の見通しを立て、学習を通して現代の特色を明らかにしようとしている。
3 年 1 学 期	3 年 前 期	108	276 277	タイムトラベル⑩ 高度経済成長期を眺めてみよう 1960～70年ごろのある場面	①新幹線が開通した1960年代のあるまちなの様子を描いた想像図を見て、第二次世界大戦期と比べて、どのような点に変化し、どのような共通点があるのかを読み取り、疑問があれば追求すべき課題(生徒自身の「単元を貫く問い」)を設定できる。	①小学校での学習を踏まえて、タイムトラベルの想像図から、高度経済成長期の交通手段や選挙活動の様子などを読み取っている。 ②大正時代や第二次世界大戦期と高度経済成長期の違いに着目し、タイムトラベルの想像図に描かれている事象を相互に関連づけるなどして、時代の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③タイムトラベルの想像図から高度経済成長期の特色を明らかにするための課題を見だし、主体的に追究しようとしている。
3 年 1 学 期	3 年 前 期	109	278 279	1 敗戦からの出発 ◎敗戦後、日本の人々と社会はどのような状況であったのだろうか。	①終戦後、連合国軍総司令部(GHQ)が中心となって民主化を進めたことを理解できる。 ②敗戦が人々に与えた影響を、国内の人々の生活の変化や海外の戦地にいた人々の姿から考察できる。	①GHQの軍国主義の徹底的な排除と民主化政策の指示に基づき、日本政府が軍隊の解散、戦犯の逮捕、戦争協力者の公職からの追放などを行ったことを理解している。 ①戦後、多くの人々が海外から引き揚げてきた一方、シベリアに抑留された人々や中国残留孤児など、終戦によっても帰国できなかった人々もいたことを理解している。 ②本時の学習課題について、敗戦によって600万人もの日本人が引き揚げてきたことに着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③日本人戦犯の解放について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題に対して関心を高めている。
3 年 1 学 期	3 年 前 期	110	280 281	2 新時代に求められた憲法 ◎日本の民主化を進めるために、どのような改革が行われたのだろうか。	①戦後、政治・経済・教育などの民主化政策がどのように進められたかを理解できる。 ②日本国憲法が、国民主権・平和主義・基本的人権の尊重を基盤として制定された理由を考察し、適切に表現できる。	①この時期に進展した日本の民主化政策の内容とそのねらいについて、資料から読み取り、理解している。 ②本時の学習課題について、財閥解体や農地改革、日本国憲法の制定が民主化に果たした役割に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
3 年 1 学 期	3 年 前 期	111	282 283	3 冷たい戦争とその影響 ◎冷戦は日本や世界各地にどのような影響を与えたのだろうか。 ◇節の問い◇ 第二次世界大戦後、日本は独立の回復に向けて、どのような取り組みを行ってきたのだろうか。	①第二次世界大戦後、国際関係は東西陣営が対立する冷戦構造を中心に展開されたことを理解できる。 ②日本に警察予備隊が創設された理由を、冷戦との関わりから考えることができる。 ③冷戦中に核開発競争が進んだ理由を考え、そこで見られる課題を主体的に追究できる。	①冷戦の影響によってドイツや朝鮮が分断され、西ドイツと東ドイツ、韓国と北朝鮮に分かれたことを理解している。 ②本時の学習課題について、占領政策の転換や新たに生み出された分断に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③核兵器開発競争と日本について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題に対して関心を高めている。
				第2節 世界の多極化と日本の成長 ◇節の問い◇ 国際社会に復帰した日本は、どのような役割を担うようになったのだろうか。	〈第2節のねらい〉 ①日本が独立を回復して国際連合に加盟し、国際社会に復帰するまでの経緯を理解させる。 ②日本の産業・経済や科学技術の著しい発展とそれに伴う生活の向上や、それらを背景とする世界有数の経済大国への急速な成長、および石油危機が政治や経済に及ぼした影響などに気づかせる。 ③沖縄返還、日中国交正常化などを取り上げ、東アジアとの新たな関係や当時の国際情勢について理解させる。	〈第2節の評価規準の具体例〉 ①国際社会への復帰、高度経済成長、国際社会との関わりなどをもとに、日本の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において日本の役割が大きくなってきたことを理解し、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②日本の独立後の政治展開と、ベトナム戦争や石油危機などの国際社会の動きに着目し、独立後の社会の変化が国民生活へどのような影響を及ぼしたかを考察し、事象を相互に関連づけるなどして、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③高度経済成長に伴う社会の変化について、章の問いと関連づけながら「国際社会に復帰した日本は、どのような役割を担うようになったのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。
3 年 1 学 期	3 年 前 期	112	284 285	1 日本の独立と世界の動き ◎独立を回復した日本は、どのような課題を残しながら国際社会に復帰したのだろうか。	①日本がアメリカとの関係を重視しながら、サンフランシスコ平和条約を軸に国際社会に復帰していく過程を理解できる。 ②独立を回復し国際社会に復帰する過程で、日本に残された課題を考察できる。	①日本がサンフランシスコ平和条約を結んで独立を回復し、その後国際連合に加盟して、国際社会に復帰していった過程を理解している。 ②本時の学習課題について、冷戦が日本の国際社会への復帰に与えた影響に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③在日韓国・朝鮮人について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題に対して関心を高めている。

※総時限数を130で構成した(予備7時限分、「身近な地域調査」8時限分、「タイムトラベル」11時限分、「学習を振り返ろう」6時限分を含む。その他の特設ページはここに含めていない)。
 ※身近な地域の調査(8時限分)は、地域の題材に応じて適切な時期に行ってください。

学期	前後期	時限	教科書ページ	項目 (◎学習課題)	目標	評価規準の具体例 ①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③=主体的に学習に取り組む態度
3年1学期	3年前期	113	288 289	2 冷戦下での日本とアジア ◎アメリカとソ連の対立は、日本を含めた東アジアの国際関係にどのような変化を与えたのだろうか。	①ベトナム戦争が起こった背景を理解し、沖縄が日本へ返還された理由をベトナム戦争との関わりから考察できる。 ②日本が近隣諸国と国交正常化を進めた経緯を理解し、残された課題点について考えることができる。 ③沖縄の基地問題について現状を理解し、そこで見られる課題を主体的に追究できる。	①沖縄は東アジアの軍事拠点として、安全保障上の要請からアメリカ軍基地を残したまま返還されたことを理解している。 ②本時の学習課題について、ベトナム戦争と沖縄との関係や中国や韓国との国交正常化に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③沖縄の基地問題について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題に対して関心を高めている。
3年1学期	3年前期	114	290 291	3 経済成長による日本の変化 ◎急速な経済の発展は、私たちの生活にどのような影響を与えたのだろうか。	①高度経済成長によって、短期間にインフラが整備され、国民の生活が向上したことを理解できる。 ②急激な工業化による公害や石油危機に日本がどのように取り組み、乗り越えることができたのかを考察できる。	①日本が高度経済成長を迎えた要因と、経済成長期に公害などの問題が発生したことを理解している。 ②本時の学習課題について、高度経済成長が日本の社会にもたらした功罪に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③石炭から石油への転換について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題に対して関心を高めている。
3年1学期	3年前期	115	292 293	4 日本の社会と国際関係の変化 ◎経済大国となった日本は、日本国内や国際社会にどのような影響を与えたのだろうか。	①日本の経済発展が、国内や国際社会に与えた影響を理解できる。 ②国際社会において日本が果たすべき役割について考察し、そこで見られる課題を主体的に追究できる。	①日本の経済発展により、国内ではバブル経済を迎えた一方、国際社会ではアメリカなどとの貿易摩擦が起こったことを理解している。 ②本時の学習課題について、財政赤字と民営化や諸外国との経済関係の変化に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③男女共同参画社会について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題に対して関心を高めている。
3年1学期	3年前期	116	294 297	5 大衆化・多様化する戦後の文化 ◎戦後復興期から高度経済成長期にかけて、人々の生活や文化はどのように変化したのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 国際社会に復帰した日本は、どのような役割を担うようになったのだろうか。	①戦後の文化の特色を、アメリカ文化の影響とマスメディアの発達との関わりから理解できる。 ②高度経済成長により、人々の生活や意識がどのように変化してきたかを考察できる。	①戦後、アメリカの占領の影響を受け、映画や音楽などさまざまなアメリカ文化が入ってきたことを理解している。 ①高度経済成長によって人々の生活がどのように変化したのか、文章やグラフなどから読み取っている。 ②本時の学習課題について、マスメディアの発達に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③言論の自由の回復について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題に対して関心を高めている。 ③節の問いについて振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。
第3節 これからの日本と世界 ◇節の問い◇ 現代社会の諸課題の解決に向けて、私たちはどのように取り組んでいけばよいだろうか。					(第3節のねらい) ①世界規模での米ソ両陣営の対立が終わったことやその影響に気づかせ、冷戦終結後の国際協調の平和外交の推進や開発途上国への援助なども踏まえ、国際社会において日本の役割が大きくなってきたことを理解させるとともに、公民的分野の学習に向けた課題意識をもたせる。 ②冷戦終結後も国際社会には、民族や宗教をめぐる対立、国家を超えた地域統合、地球環境問題とその取り組み、資源やエネルギーをめぐる課題、日本と近隣諸国との間の領土をめぐる問題、日本人拉致問題など、主権や人権、平和などさまざまな課題が存在していること、それらを解決するためのさまざまな人々の努力が重ねられていることに気づかせる。	(第3節の評価規準の具体例) ①冷戦の終結、グローバル化する世界などをもとに、激変する国際社会において日本の役割が大きくなってきたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②冷戦終結後の国際社会の変化などに着目して、グローバル化の進展とその影響について、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ③グローバル化する社会について、章の問いと関連づけながら「現代社会の諸課題の解決に向けて、私たちはどのように取り組んでいけばよいだろうか」という節の問いを主体的に追究、解決しようとしている。
3年1学期	3年前期	117	298 299	1 グローバル化が進む世界 ◎冷戦終結後、世界ではどのような変化が起きたのだろうか。	①冷戦後、世界はグローバル化が進み、資本、商品、人の流れ、情報などが国家の枠を越えて移動するようになったことを理解できる。 ②冷戦の終結後、世界各地で民族の対立が表面化し、地域紛争が激化した理由を考察できる。	①冷戦の終結とグローバル化の進展との関係や、グローバル化が経済の競争を活発にさせたことを理解している。 ②本時の学習課題について、地域紛争の激化やテロの発生に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
3年1学期	3年前期	118	300 301	2 激変する日本とアジア ◎冷戦終結後、日本国内の政治・経済やアジア諸国との関係は、どのように変化したのだろうか。	①1990年代、日本では55年体制の終わりとバブル経済の崩壊が起こり、その後の政治と経済に大きな影響を与えたことを理解できる。 ②1990年代以降の東アジア諸国の経済発展の一方で、東アジア諸国が日本との間にいまだ課題を抱えていることを考察できる。	①冷戦後に起こった日本での政治面と経済面の大きな出来事を資料から読み取り、それぞれの経緯を適切にまとめ、理解している。 ②本時の学習課題について、政権交代と長引く不況に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③日本における先住民族について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題に対して関心を高めている。
3年1学期	3年前期	119	302 303	3 国際社会におけるこれからの日本 ◎よりよい社会の実現に向けて、私たちは歴史から学んだことを、どのように生かしていくことができるだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 冷戦終結後には、どのような課題や社会の変化が起こったのか、一つの出来事を選びその原因から説明してみよう。	①東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故は、日本のエネルギー政策の見直しのきっかけとなったことを理解できる。 ②現代社会における問題の克服には、国際社会全体での取り組みが不可欠であることを理解し、私たちの現在と未来について、歴史で学んだことを通して考えることができる。	①近年、「持続可能な社会」の実現が世界の共通の課題となっていることを理解している。 ②本時の学習課題について、グローバル化の進展や環境問題に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③東日本大震災について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題に対して関心を高めている。 ③節の問いについて振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。
3年1学期	3年前期	120	304 306	章の学習を振り返ろう 現在に続く日本と世界 ■章の問い■ 戦後の日本の社会はどのように変化した、現在へつながってきたのだろうか。	(本時の主な学習活動) ①現代の日本社会を形づくる画期となったと考えられる出来事を取り上げて重要度が高い順に並べ、それぞれの考えを深めさせる。 ②現代とはどのような時代か、自分の言葉で説明したり、意見交換を行ったりする。	(評価規準の具体例) ①「戦後の日本の社会はどのように変化した、現在へつながってきたのだろうか」という章の問いについて、第7章の学習で獲得した知識を活用して、自分の考えをまとめている。 ②「戦後の日本の社会はどのように変化した、現在へつながってきたのだろうか」という章の問いについて、政治活動を行う人の移り変わりや工業化とその影響に着目するなどして、多面的・多角的に考察し、現代の特色を適切に表現するとともに、現在とのつながりについて考察している。 ③第7章における自身の学習の経緯について振り返り、学習の方法や留意点について自身の学びを確認、調整しようとしている。

帝国書院 令和7年度以降用「社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き」年間指導計画案(サンプル)

※内容は一部変更する可能性があります。

※総時限数を130で構成した(予備7時限分、「身近な地域調査」8時限分、「タイムトラベル」11時限分、「学習を振り返ろう」6時限分を含む。その他の特設ページはここに含めていない)。
 ※身近な地域の調査(8時限分)は、地域の題材に応じて適切な時期に行ってください。

学期	前後期	時限	教科書ページ	項目 (◎ 学習課題)	目標	評価規準の具体例 ①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③=主体的に学習に取り組む態度
3年1学期	3年前期	121 123	307 309	これからの社会を構想しよう	(本時の主な学習活動) (1)社会的な関心からテーマを決め、現代に至るまでの歴史的な経緯を整理し、さまざまな角度から課題解決への鍵を探って、未来へのメッセージをまとめる。	(評価規準の具体例) ②これまでの歴史学習を踏まえ、歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、適切な課題を設定し、課題意識をもって多面的・多角的に考察・構想し、表現している。 ③歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究・解決しようとしているとともに、公民的分野へのつながりを見いだそうとしている。